首都大学東京都市環境学部・大学院理学研究科
東京都立大学理学部・大学院理学研究科
地理学教室年報

2005 年度

首都大学東京都市環境学部・大学院理学研究科地理学教室

東京都立大学理学部・大学院理学研究科地理学教室

はじめに

平成17年４月、東京都立大学は首都大学東京に衣替えした。これに伴って、従来は理学部に所属していた地理学科も、地理環境コースと名称変更し、都市基盤環境・建築都市・材料化学の各コースとともに、都市環境学部を構成することになった。平成18年４月から都市環境科学研究科がスタートすることで、１年遅れで新大学院も動き出す予定である。平成17年度の最大の懸案事項は、JABEEの中間審査受審であったが、昨年来進めてきた準備のおかげで、無事昨秋終えることができ、平成19年度までのJABEEプログラム継続認定の内々定を受け取っている。いろいろ紆余曲折もあったが、ともかく教室構成員全員の協力のもと、無事プログラム継続が決まったことは、慶賀すべきことである。なお、正式通知は平成18年６月の予定である。

まるで敗戦直後のかつての日本社会のように、大学、学部、そして教室の事務・教育体制が混乱を極めた１年であった。恐らくはこの混乱は来年度以降も続くことであろう。そんな訳で、この１年間の出来事を書き出せば、任期制の適用を前提とする教員の新しい人事制度や、平成18年度から試行的に導入される年俸制の問題など、いくらスペースがあっても足りない。ここはあっさりと、平成17年７月の教室会議で、「当面の教室の重点課題」として、次の３点を確認したことだけを記しておきたい。１）GIS教育を中心としたJABEEへの取り組み強化、２）都市ないしは東京都の環境研究の推進、３）自然・文化ツーリズムコース立ち上げへの協力。

最後に、教室内の人事異動について記しておきたい。教室事務室職員としては、 再雇用職員の坂本伸枝さんが、旧理学研究科身体運動科学教室事務室から異動してこられた。坂本さんには、非常勤職員の田村美智子さんとともに、教室窓口としてさまざまな事務の仕事をお願いしている。また、教室の資料室は図書情報センター（附属図書館）の分館として位置付けられ、司書の辻　仁佳子さんが資料室に配属になった。この結果、以前どおり、資料室の平日開館時間は 10～18 時となった。教員については、岩田修二教授が立教大学観光学部教授へ、篠田雅人准教授が鳥取大学乾燥地研究センター教授へ、いずれも平成 18 年４月１日付けで栄転された。塚本すみ子さん（准教授 B）もイギリス・ウェールズ大学地理学・地球科学教室に平成 18 年５月１日から研究員として転出される予定である。お三方の新天地での活躍を大いに期待したい。最後の最後に、この激動の１年間、教室センター、センター補佐として頑張ってくださった、助手の坪本裕之さん、原山道子さんにお礼申し上げたい。

平成 18 年 3 月末日

平成 17 年度地理環境コース主任教授

杉浦芳夫

目次

はじめに 1

I. 教室の構成
2005 年度教職員構成表 5
教職員の人事異動 6
2005 年度教室役割分担 7
2005 年度の客員研究教授・客員研究員 9

II. 教育活動
2005 年度非常勤講師 13
2005 年度学部・大学院授業時間割表 14
2005 年度巡検（授業関係） 15
2005 年度学部・大学院在籍者数 16
2005 年度学生の動向 17
2005 年度学部卒業者の論文テーマおよび進路 19
2005 年度大学院修士課程修了者の論文テーマおよび進路 21
2005 年度博士（理学）取得者の学位論文テーマおよび進路 22
2005 年度日本学術振興会特別研究員・研究生(大学院・学部) 23

III. 研究活動
地形・地質学研究室 27
気候学研究室 32
環境地理学研究室 39
環境変遷学研究室 43
地理情報学研究室 49
都市・人文地理学研究室 53
2005 年度の教員の学外活動 58
2005 年度海外研究 65
2005 年度に教室を訪問した外国人研究者 68

IV. 教室行事・出版物
2005 年度の主な教室行事 71
2005 年度の教室出版物 72

I. 教室の構成

2005 年度教職員構成表

研究室	研究分野	教授	准教授・助教授	准教授 B・研究員・助手	主事
地形・地質学	地形学 第四紀学 地質学	山崎晴雄	鈴木毅彦		坂本伸枝 田村美智子*
気候学	気候学 気候変動学 都市気候	三上岳彦	篠田雅人	中野智子	
環境地理学	環境地形学 環境論 景観論	堀　信行	岡　秀一	大山修一	
環境変遷学	氷河・山岳地理学 堆積学 地球年代学 古環境復元	岩田修二 福澤仁之		塚本すみ子	
地理情報学	自然地理情報解析 モデリング リモートセンシング		松山　洋	泉　岳樹 中山大地	
都市・人文地理学	都市地理学 計量地理学 社会経済地理学 行動地理学	杉浦芳夫	菊地俊夫 若林芳樹	武田祐子 坪本裕之 原山道子	

*は非常勤職員

教職員の人事異動

【定年退職】
なし

【新規採用】
なし

【昇任】
なし

【転出】
岩田修二　教授　立教大学観光学部（教授）　2006 年３月 31 日
篠田雅人　准教授　鳥取大学乾燥地研究センター（教授）　2006 年３月 31 日

2005 年度教室役割分担

全学	学生支援・国際交流委員会	三上	図書情報ｾﾝﾀｰ委員会	若林
	学生委員会	菊地	教務委員会	
	就職支援委員会	岡	基礎教育部会	若林
	国際交流委員会	三上	現場体験型ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ部会	福澤
	情報ｼｽﾃﾑ委員会	松山	学芸員委員会	鈴木
	学位設計委員会	福澤	入試委員会	－
	科目登録委員会	福澤	ＦＤ　委員会	篠田
都市環境学部	ｺｰｽ主査	杉浦	大学院入学試験実施委員会	－
	代議員会	杉浦・三上	寄附金委員会	三上・杉浦
	学生支援・国際交流委員会	三上・菊地	人事委員会	山崎
	就職支援委員会	菊地	ｾｸｼｭｱﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ及び	
	国際交流委員会	三上	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止委員会	篠
	図書情報ｾﾝﾀｰ委員会	若林	研究費評価・配分委員会	－
	入試委員会	－	広報委員会	松山
	ＦＤ　委員会	篠田	産学公連携ｾﾝﾀｰ運営委員会	福澤
	自己評価検討委員会	杉浦	新大学院検討委員会	杉浦
	年俸制・業績評価委員会	山崎	教務委員会	若林
	都連携ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ委員会	福澤	教育実習委員会	堀
	修士一貫・博士一貫制度検討委員会	若林	自己点検・評価委員会	杉浦
	入試制度・広報委員会	松山	研究倫理委員会	堀
	ｵｰﾌﾟﾝｸﾗｽ委員会	岡		
理工系	RI 委員会	福澤	大型構造物施設委員会	山崎
	理系共通施設委員会	山崎		

教室	センター　コース長　杉浦　コース長代理　岩田　ＧＲ係　原山 事務長　坪本　事務長補佐　原山　営繕係　坪本 事務主事　坂本		
	運営協議会　<u>杉浦</u>・岩田・三上・堀・山崎・（松山）		
	教育点検改善委員会　<u>杉浦</u>・岩田・三上・堀・山崎・松山・若林		
	教務委員会 (学部)　<u>若林</u>・大山・中野 (大学院)　福澤・塚本	教務係　坂本	
	会計委員会　<u>岩田</u>・中山・原山	会計係　坂本 会計実務担当係　鈴木・中野・大山・塚本・中山・原山	
	図書委員会　<u>杉浦</u>・菊地・原山・泉・塚本(前期 松山)・辻		
	図書選定委員会		
	情報委員会　<u>三上</u>・松山・泉・武田・中山	情報係　泉	
	実験室・備品管理委員会　<u>鈴木</u>・中野・大山・塚本・中山・武田	器具係　中野・坂本 共同研究備品管理係　大山	
	教養学年担当委員会　２年担当：山崎・菊地 １年担当：堀・篠田	教育備品管理係　武田 情報機器備品管理係　中山	
	編集委員会　<u>岩田</u>・篠田・塚本・武田	写真･地図係　塚本	

下線は委員長。

2005 年度の客員研究教授・客員研究員

氏名	所属	期間
【客員研究員】		
ラナトゥンゲ・エドモンド	農業環境技術研究所	2004 年 4 月 12 日～2006 年３月 31 日
ナチン		2005 年 4 月 1 日～2005 年３月 31 日
吉田圭一郎	横浜国立大学	2005 年 4 月 1 日～2005 年３月 31 日
田中博春		2006 年１月５日～３月 31 日
松本　淳	東京大学	2005 年 11 月５日～2006 年３月 31 日
財城真寿美	神戸大学	2005 年 4 月 1 日～2006 年３月 31 日

II. 教育活動

2005 年度非常勤講師

氏名	所属	講義名
【学部】		
浅野俊雄	東京都立大森高校	理科教育法Ⅱ
向後　武	東京都立飛鳥高校	社会科教育法
近藤一憲	桐朋中学・高校	地理歴史科教育法
田代　博	筑波大付属高校	地理歴史科教育法
井上公夫	日本工営	自然地理学特殊講義Ⅲ
苅谷愛彦	千葉大学自然科学研究科	総合演習Ⅵ
高城重厚	タキ・アソシエイツ技術士事務所	人文地理学特殊講義Ⅲ
【学部・大学院共通】		
小林　茂	大阪大学大学院文学研究科	歴史地理学
		人文地理学特別講義Ⅰ
田中　博	筑波大学地球科学系	気象学
		地球科学特別講義Ⅰ
渡邊眞紀子	東京工業大学総合理工学部	土壌学
		自然地理学特別講義Ⅰ

平成17年度　地理学教室時間割表

地理学教室教務委員会　2005.3.3

	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月	**都市空間の人文地理／人文地理学Ⅰ（前：杉浦）　教養230** **地域環境の人文地理／人文地理学Ⅱ（後：菊地）　教養230** 地理学計算機実習　（後：若林・武田・中山）　理834	**大地の成り立ちを探る／自然地理学Ⅰ　（前：山崎）　AV263** ※地球環境変遷学徳論Ⅱ　（後：福澤）　理309	全②仏・中国語Ⅱ（前・後） 第四紀学　（後：山崎）　理工301 ※地理情報学特論Ⅱ　（前：松山）　理305	理②英語Ⅱ（前・後） **地理学概説Ⅰ　（前：堀）　教養209** **地理学概説Ⅱ　（後：若林）　教養209** 地理学第二基礎セミナーⅣ　（後：岩田）　理工301 ※人文地理学特論Ⅰ　（前：菊地）　理309	基礎ゼミ（前） 数理地理学　（前：杉浦）　理工301	英語Ⅱ（前・後） 地理学概説Ⅰ　（前：堀）　教養209 地理学概説Ⅱ　（後：若林）　教養209 地理情報学　（後：松山）　理工302	人文地理学Ⅰ　（前：杉浦）　教養304 人文地理学Ⅱ　（後：菊地）　教養304 地理学第一基礎セミナーⅣ　（前：福澤）　理工301 ※自然環境学特別研究　（堀）　理300 ※地理情報学特別研究　（松山）　理301
火	環境　未修言語ⅠA ※地形学特別研究　（山崎）　理300 地理学基礎演習 （前：岡・杉浦・泉・大山・武田・塚本・坪本・中野・中山・原山）　理774・874 自然地理学実習Ⅰ　（後：福澤・鈴木・塚本）　理774	環境　英語ⅠA（前）（後） 自然地理学特殊講義Ⅰ　（後：三上）　理工302 地理学第一基礎セミナー（Ⅲ）　（前：堀）　理工301 地理学第二基礎セミナー（Ⅲ）　（後：岡）　理工.301 ※気候学特論Ⅰ　（前：篠田）　理309 ※自然環境学特論Ⅱ　（後：堀）　理300	環境　情報リテラシー実践Ⅰ ②中国語Ⅱ（前・後） 地理学専門セミナーⅠ～Ⅴ，※地理学セミナーⅠ～Ⅳ （前・後：岩田・福澤・堀・三上・山崎・岡・篠田・鈴木・松山・泉・大山・塚本・中野・中山）　地形：理300、気候：理工301、環境：理302、変遷：理.309、情報：理875	人文地理学実習　（後：杉浦・武田・坪本・原山）　理774	基礎ゼミ　（前） **地理環境科学序説/地理学序説　（後：教務委員長）　理工301** 都市地理学　（前：杉浦・菊地・若林）　理工301 ※人文地理学特論Ⅲ　（後：杉浦）　理工302 ※地形学特論Ⅱ　（後：山崎）　理304	英語Ⅱ（前・後） 社会科教育法　（後：向後）　理300 地誌学Ⅰ　（前：岡）　理工302 経済地理学　（後：菊地）　理工301 地理学基礎演習 （前：岡・杉浦・泉・大山・武田・塚本・坪本・中野・中山・原山）　理774・874 自然地理学実習Ⅰ　（後：福澤・鈴木・塚本）　理774	自然地理学Ⅰ　（前：山崎）　AV263 自然地理学Ⅱ　（後：篠田）　AV263 地誌学概説　（前：岩田）　理工301 地理学第二基礎セミナー（Ⅴ）　（後：松山）　理300
水	※人文地理学特別研究　（杉浦）　理工303 ※気候学特別研究　（三上）　理工301 ※地理学特別セミナー　（環境変遷）　Ⅰ～Ⅵ　（岩田・福澤）　理300	理②英語Ⅱ（前・後） 全②独・仏・中国語Ⅱ（前・後） 地理学第二基礎セミナー（Ⅵ）　（後：菊地・若林）　理工301	全②仏語Ⅱ（前・後） 地球科学特殊講義Ⅰ　（前：岩田）　理工303 地理学専門セミナーⅥ，※地理学セミナーⅠ～Ⅳ　（前・後：杉浦・菊地・若林・武田・坪本・原山）　理工301	**地球環境科学序説Ⅰ／地球科学序説Ⅰ　（前：鈴木）　理工新棟12-101** **地球環境科学序説Ⅱ／地球科学序説Ⅱ　（後：三上）　理工新棟12-101** 気候学　（前：篠田）　理工302 地質学　（後：福澤）　理工302	**大気と水の循環を学ぶ／自然地理学Ⅱ（後：篠田）　AV263** 地理学第一基礎セミナー（Ⅵ）　（前：杉浦）　理工301 地誌学Ⅱ　（後：若林）　理工301	地球科学概説Ⅰ　（前：鈴木）　理工新棟12-101 地球科学概説Ⅱ　（後：三上）　理工新棟12-101 環境地理学　（前：岡）　理工302 植生地理学　（後：岡）　理工302	地理学第一基礎セミナー（Ⅱ）　（前：篠田）　理工301 地理学第二基礎セミナー（Ⅱ）　（後：三上）　理工301
木	環境　英語ⅠA（前）（後） ※地理学特別セミナー　（環境地理）　Ⅰ～Ⅵ　（堀・岡） ※地理学特別セミナー　（地理情報）　Ⅰ～Ⅵ　（松山）	環境　未修言語ⅠA（前）（後） ※地理学特別セミナー　（地形地質）　Ⅰ～Ⅵ　（山崎・鈴木）　理300	※地理学特別セミナー　（都市人文）　Ⅰ～Ⅵ　（杉浦・菊地・若林）　理工301	地理歴史科教育法　（後：田代）　理工302 ※地理学特別演習Ⅰ～Ⅳ　（全教員）　理774		地理歴史科教育法　（後：近藤）　理工302 地理学特別課題研究Ⅰ・Ⅱ　（前・後：教室主任）　理工301	地理学第一基礎セミナー（Ⅴ）　（前：松山）　理300 地理学基礎課題研究　（後：教務委員長）　理工301
金	全②独語Ⅱ（前・後） **地球環境の変遷と考古学／環境と歴史Ⅰ　（前：福澤・山田）　AV263** **自然と共生する文明／環境と歴史Ⅱ（後：福澤）　AV263** ※地理学特別セミナー　（気候）　Ⅰ～Ⅵ　（三上・篠田）　理309 ※地球環境変遷学特別研究　（岩田）　理300	環境　情報リテラシー実践Ⅰ（前） 全②独・仏・中国語Ⅱ（前・後） 自然災害と社会 （後：岩田・山崎・三上・杉浦）　AV263	自然地理学実習Ⅱ　（後：（松山）・泉・大山・中野）　理774・834	地理学第一基礎セミナー（Ⅰ）　（前：山崎）　理工301 地理学第二基礎セミナー（Ⅰ）　（後：鈴木）　理300	基礎ゼミ　（前） 地形学　（前：鈴木）　理工301	英語Ⅱ（前・後） 理科教育法Ⅱ（地学）　（後：浅野）　理工302	地球環境変遷学　（前：福沢）　理工301
土		※人間行動情報特別研究　（今中）　体育研究棟	地理学研究法Ⅰ・Ⅱ（前・後） （各調査法担当者）　理工301 ※地理学特別セミナー　（人間行動情報）　Ⅰ～Ⅵ　（今中）　体育研究棟	自然史博物館学　（前：鈴木）　理工301	5限	6限	7限

［学部集中］　地理学調査法Ⅰ（山崎・鈴木）、地理学調査法Ⅱ（三上・中野）、地理学調査法Ⅲ（堀・大山）、地理学調査法Ⅳ（岩田・塚本）、地理学調査法Ⅴ（松山・泉）、地理学調査法Ⅵ（若林・武田）
測量実習（（岡）・泉・中山）、自然科学実験（地学）・地球科学実験（鈴木・篠田）、自然史博物館学実習（鈴木・塚本）
［学部非常勤集中］　自然地理学特殊講義Ⅲ（井上公夫）、人文地理学特殊講義Ⅲ（高城重厚），土壌学（渡邊真紀子）、歴史地理学（小林　茂）、気象学（田中　博）、総合演習Ⅳ（苅谷愛彦）
※は大学院科目、下線は首都大科目、太字は首都大・都立大共通科目（左：首都大科目名／右：都立大科目名）

2005 年度巡検（授業関係）

科目名	担当	日程	行き先
地理学基礎演習	泉、坪本、中山、原山	5 月 21 日	橋本周辺
地理学基礎演習	泉、大山、坪本、中野、中山、原山	6 月 4 日	高尾山
自然地理学実習Ⅰ	鈴木	1 月 15 日	相模川上流
自然地理学実習Ⅱ	大山	10 月 22～23 日	蓼科山
人文地理学実習	武田、坪本、原山	11 月 12 日	大田区
地理学調査法Ⅰ	山崎、鈴木	9 月 24～29 日	青森
地理学調査法Ⅱ	三上、中野	8 月 14～18 日	新宿御苑
地理学調査法Ⅲ	堀、大山	9 月 9～14 日	沖縄
地理学調査法Ⅳ	岩田・塚本	8 月 27～9 月 1 日	上高地
地理学調査法Ⅴ	松山・泉	8 月 20～24 日	阿蘇山周辺
地理学調査法Ⅵ	若林、武田	9 月 26～10 月 1 日	静岡市
地理学セミナーⅠ	山崎	6 月 12 日	中之条盆地
地理学セミナーⅡ	三上、篠田、中野	9 月 27～28 日	大学セミナーハウス(八王子)
地理学セミナーⅤ	松山、泉、中山	10 月 1～2 日	巻機山麓
地理学セミナーⅤ	松山、泉、中山	2 月 4～5 日	箱根

2005 年度学部・大学院在籍者数

（2005 年 4 月 1 日　現在）

学年		(A 類)	(B 類)
学部	１年	33	
	２年	17	
	３年	19	7
	４年	23	5
	５年		8
大学院	修士課程	32	
	博士課程	15	
研究生		6	
学振研究員		1	

III. 研究活動

地形・地質学研究室

教　授：　山崎晴雄
准教授：　鈴木毅彦
客員研究員：　植木岳雪
研究生：　田村糸子
大学院（博士課程）：　大石雅之
大学院（修士課程・博士課程前期）：　下釜耕太・斎藤　光・安藤広一・寺田香奈子
卒研生：　荒井美宇・遠藤　駿・畠山　久

地形・地質学研究室は，固体地球の表面（地表）と地殻における地球科学的な諸現象を研究対象としている．とくに現在および最近の地質時代（第四紀）の地形と地質の性格を理解し，その将来像を展望することを目標としている．このために過去から現在までの，以下に例を挙げる諸現象の強度と頻度や環境の変化，それに現在どのような作用が働いているか，などに焦点をあて，研究している．最近行なっている主な研究テーマを挙げると次のとおりであり，日本をはじめ世界各地での野外観察・観測，あるいは室内での実験によって次のようなバラエティにとむ研究を行なっている．

1.日本島とその周辺海域に広く堆積している火山灰に注目し，それを噴出した火山の認定，噴火の性質，時代，分布などを明らかにする．
2.火山灰を広域的な時間指標層として，最近の百万年間，十万年間，一万年間，千年間の環境の変遷史（地形変化，気候・植生変化，海面変動，地殻変動など）を編む．
3.日本や諸外国の沿岸地域の地形・地質学的資料をもとに第四紀海面変動と地盤運動に関するモデリングをおこない，より普遍的な海面変動史を明らかにする．
4.プレート境界域の第四紀地殻変動に注目し，その時間的変遷や地震発生様式からプレートの収斂・衝突過程の詳細を明らかにする．
5.山崩れや洪水などの外作用による地形変化および火山活動・断層運動などの内作用による地形変化の研究を災害研究とも関連させておこなう．地形計測および土砂移動観測によって，山地および斜面の発達過程を明らかにする．

【研究業績】

<u>原著論文・展望論文(審査付きの論文)</u>

Suzuki, T., Eden, D., Danhara, T. and Fujiwara, O. 2005. Correlation of the Hakkoda-Kokumoto Tephra, a widespread Middle Pleistocene tephra erupted from the Hakkoda Caldera, northeast Japan. The Island Arc, 14, 666-678.

正田浩司・菊地隆男・鈴木毅彦・竹越　智・関東平野西縁丘陵団体研究グループ　2005. 関東平野西縁に分布する飯能礫層下部層のテフラ層序と広域対比. 地球科学, 59 , 339-356.

田村糸子・山崎晴雄・水野清秀　2005．前期鮮新世 4.1Ma 頃の広域テフラ，坂井火山灰層とその相当層．　地質学雑誌，111，727-736.

大野稀一・山川修治・大石雅之・高橋　康・上野龍之・井田貴史　2005．凝集粒子を用いた噴煙高度の推定－浅間火山 2004 年 9 月 23 日噴火に伴う降下火砕物の堆積様式－．火山，50，535-554.

その他の論文(査読なしの論文，紀要・単行本の分担執筆を含む)

山崎晴雄　2005．南関東の活断層．基礎工，33，No.11：14-19.

山崎晴雄　2006. 関東平野の地震地質ー南関東の基盤断層と活断層の関係ー, 月刊地球、28 (1) 、8-16

鈴木毅彦　2005．地形図から地形をよむ．菊地俊夫・岩田修二編「めぐろシティカレッジ叢書 5　地図を学ぶ　―地図の読み方・作り方・考え方―」二宮書店，110-120.

鈴木毅彦　2005.【コーヒーブレイク】地形図で「はけ」を歩く．菊地俊夫・岩田修二編「めぐろシティカレッジ叢書 5　地図を学ぶ　―地図の読み方・作り方・考え方―」二宮書店，152-155.

Suzuki, T. 2005. EDS analysis of titanomagnetite within weathered middle Pleistocene tephras and its application for chronology of the fluvial surfaces in the kanto Plain, central Japan. Proceedinds of the International Field Conference and Workshop on Tephrochronology & Volcanism: Dawson City, Yukon Territory, Canada July 31st - August 8th, 2005, Institute of Geological & Nuclear science reports, 2005/22, 30.

鈴木毅彦・中里裕臣　2006. 関東平野の形成史-最近のテフラ・地下地質・テクトニクス研究-(総論). 月刊地球，28（1），3-7.

鈴木毅彦・村田昌則・中山俊雄　2006．武蔵野台地地下における第四紀前半のテフロクロノロジー．月刊地球，28（1），44-48.

下釜耕太・鈴木毅彦　2006．関東平野南西縁中津層群最上部に検出された鮮新世テフラ HSC とその意義．月刊地球，28（1），56-60.

編著書(単著・共著・編集など，分担執筆は含まない)

なし

報告書

山崎晴雄　2005．活断層から発生するひとまわり小さい地震について．平成 16 年度地震研究所特定共同研究（A）報告　内陸直下地震の予知，34-37.

鈴木毅彦　2006．火山噴出物をもちいた小起伏面の発達史的研究　課題番号 15500689．平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書．53.

鈴木毅彦・大石雅之　2006．火山地域における自然環境の保全・適正利用、および人材育成に関する課題と方向性-北海道有珠火山の事例-．自然環境の保全と適正利用・管理を担う人材養成のための調査．東京都環境局委託調査報告書，12-34.

岩田修二・菊地俊夫・岡 秀一・鈴木毅彦　2006．首都大学東京における学部向け寄附講義の企画．東京都環境局委託調査報告書，186-187.

岩田修二・菊地俊夫・岡 秀一・鈴木毅彦　2006．自然環境の保護・適正利用に関するテキスト企画．

東京都環境局委託調査報告書，188-204.

岩田修二・菊地俊夫・岡 秀一・鈴木毅彦　2006．東京都環境局委託調査のまとめ．東京都環境局委託調査報告書，205-213.

岩田修二・菊地俊夫・岡 秀一・鈴木毅彦　2006．自然環境の保全と適正利用・管理を担う人材養成のための調査．東京都環境局委託調査報告書，213.

田村糸子　2005．テフロクロノロジーに基づく中央日本の鮮新－更新世古環境復元　富山県東部呉羽山礫層の広域テフラおよび室田層の室田凝灰岩と佐布里テフラの対比からみた飛騨山脈の隆起時期の推定．　平成16年度助成金使用報告，地学雑誌，114，631-637.

田村糸子・山崎晴雄・水野清秀　2005．火山灰対比に基づく中央日本の鮮新－更新世堆積盆地の形成史．　財団法人深田地質研究所，「平成16年度深田研究助成」研究報告，41-52.

書評

なし

その他の報文(技術レポート，商業誌，解説・雑録など)

鈴木毅彦　2005．「International Field Conference and Workshop on Tephrochronology and Volcanism: "Tephra Rush 2005", Dawson City, Yukon Territory, Canada」参加報告．第四紀通信，12，6，12.

鈴木毅彦　2005．日本第四紀学会テフラ火山研究委員会企画シンポジウム「関東平野の形成成史―最近のテフラ・地下地質・テクトニクス研究に基づくその探究 ―」開催報告．第四紀通信，12，3，19-20.

講演・学会発表

山崎晴雄 2005.活断層から発生するひとまわり小さい地震について，第２回地震サイクルシンポジウム「ついに起きた超巨大地震と地震発生の繰り返し」，東京.

山崎晴雄 2005．東京の活断層―地形学から地震地質学へ―．平成17年度めぐろシティカレッジ講演，東京.

山崎晴雄　2005．富士山はなぜそこにあるのか．都立高校サイエンスパートナーシッププログラム事業「富士山」講演，東京.

Yamazaki, H. and Tamura, I. 2005. Uplift age of the Hida Mountains central Japan deduced from the correlation of widespread tephras in the Pliocene to early Pleistocene. Bulnay2005(1905年ブルナイ地震100周年記念国際研究集会)，モンゴル.

山崎晴雄　2005．活断層と地震、その対策．よこすか海洋シンポジウム2005「海洋と地震、そして私たちの暮らし」，横須賀.

山崎晴雄　2005．国府津・松田断層とテクトニクス．東京大学地震研究所共同利用研究集会「伊豆の衝突と神奈川県西部の地震・火山テクトニクス」，小田原.

山崎晴雄　2005．多摩の自然史と災害．平成17年度八王子学園都市大学講座，八王子.

山崎晴雄　2006．地質環境評価手法．パネル討論会「今後のわが国における地層処分安全研究のあり

方」，原子力安全研究成果報告会，東京.

山崎晴雄　2006．多摩の活断層と地震．東京都立永山高校公開講座「多摩の大地の歴史」特別講演，多摩市.

内記昭彦・山崎晴雄・鈴木毅彦・植木岳雪　2005．サイエンスパートナーシッププログラム（SPP）事業の実践．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，J035-006，幕張.

鈴木毅彦　2005．火砕流堆積物からみた阿武隈山地北西部に分布する小起伏面の形成過程と年代．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，幕張.

鈴木毅彦　2005．川がつくる地形-河川の地形学-．めぐろシティカレッジ「川から読み解く世界-川の流れに刻まれた生活文化-」，東京.

鈴木毅彦　2005．関東ローム層中のテフラ鉱物（研修会）．茨城地学会，水戸.

Suzuki, T. 2005. EDS analysis of titanomagnetite within weathered middle Pleistocene tephras and its application for chronology of the fluvial surfaces in the kanto Plain, central Japan. INQUA Sub-Commission for Tephrochronology and Volcanism (SCOTAV) International Field Conference and Workshop on Tephrochronology and Volcanism: "Tephra Rush 2005", Dawson City, Yukon Territory, Canada.

鈴木毅彦　2005．自然の読み方①．首都大学東京オープンユニバーシティ　ボランティア・レンジャー養成講座.

鈴木毅彦　2005．川と防災-河川地形の変革と人々の営み-．めぐろシティカレッジ「川から読み解く世界-川の流れに刻まれた生活文化-」，東京.

鈴木毅彦　2005．多摩川がつくった地形をあるく・みる．めぐろシティカレッジ「川から読み解く世界-川の流れに刻まれた生活文化-」現地巡検，東京.

鈴木毅彦　2005．箱根火山の成り立ち　-TP の産状と火山体-(野外実習)．東京都立成瀬高校サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業，東京.

鈴木毅彦　2005．長沼公園の地形と地質．多摩丘陵の自然を守る会研修会，東京.

鈴木毅彦　2006．東京の丘陵・台地の生い立ち．日本第四紀学会主催シンポジウム -大都市圏の地盤私たちの生活とのかかわり-，東京.

村田昌則・鈴木毅彦・中山俊雄　2005．武蔵野台地東部，杉並・世田谷・大田地域地下における前期更新世テフラの層序とそれからみた地質構造．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，幕張.

中里裕臣・鈴木毅彦・水野清秀・大井信三・横山芳春 2005.茨城県中部の下総層群から検出された BT72 テフラ．2005 年日本第四紀学会大会，松江市.

木村純一・楠本英祐・美澄陽子・紺谷秋江・鈴木毅彦　2005．栃木県喜連川丘陵における過去 70 万年間の細粒石英の供給率と粒径変化 ．2005 年日本第四紀学会大会，松江市.

豊田　新・塚本すみ子・Hameau，S.・Tissoux，H.・宮入陽介・鈴木毅彦　2005．石英を用いたテフラの電子スピン共鳴及びルミネッセンス年代測定-現状と課題-．2005 年日本第四紀学会大会，松江市.

田村糸子・山崎晴雄　2005．テフラ対比に基づく飛騨山脈の隆起過程－富山県東部呉羽山礫層の広域テフラおよび室田層の室田凝灰岩と佐布里テフラの対比-．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，千葉.

Tamura I., Machida H. and Yamazaki H.　2005. Characteristics for identification of the Pliocene and early Pleistocene marker tephras in central Japan.　Tehpra Rush 2005 (International Field Conference and Workshop on tephrochronology and Volcanism), Canada, Yucon.

田村糸子・山崎晴雄・水野清秀　2005. 関東平野西縁多摩川河床に分布する友田２テフラと小佐治(古琵琶湖層群), OT5(氷見層群)テフラの対比　－ガウス正磁極期最上部 2.6Ma 頃の広域テフラ－. 日本地質学会第 112 年学術大会, 京都.

田村糸子　2006. 多摩の大地の歴史. 東京都立永山高校公開講座 全３回.

Machida H. and Tamura I.　2005. Pliocene-Pleistocene tephrochronology in Japan with special reference to tectonic evolution since 3-4Ma. Tehpra Rush 2005 (International Field Conference and Workshop on tephrochronology and Volcanism), Canada, Yucon.

大石雅之・鈴木毅彦　2005. 斑晶鉱物の主成分化学組成を用いた火山噴出物の同定法の検討. 日本第四紀学会大会, 松江.

大石雅之・鈴木毅彦　2005. 斑晶鉱物の屈折率を用いたテフラと溶岩の対比の試み. 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会, 千葉.

近藤玲介・塚本すみ子・大石雅之・橘　英彰　2005. OSL 年代測定によって推定された利尻ワンコの沢・利尻豊徳テフラの降下年代とその意義. 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会, 千葉.

白井正明・塚本すみ子・近藤玲介・大石雅之　2005. OSL（光励起発光）現象を利用した現世河川の砂質粒子運搬　－堆積過程に関する考察(O-137)(演旨). 日本地質学会第 112 年学術大会, 京都.

白井正明・塚本すみ子・近藤玲介・大石雅之　2005. 現世河川の洪水堆積物中に存在する砂粒子の露光状況：OSL 年代測定法を応用した試み. 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会, 千葉.

白井正明・塚本すみ子・氏家由利香・小松原純子・近藤玲介・大石雅之・芦　寿一郎　2005. タービダイト砂の OSL 年代分布から推定される鉱物粒子の運搬履歴. 日本堆積学会 2005 年例会, 福岡.

寺田香奈子・鈴木毅彦　2005. 甲府盆地における中期更新世以降の埋積過程. 日本第四紀学会大会, 松江.

【研究補助金の取得】（研究代表者のみ）

山崎晴雄　平成 17 年度科学研究費補助金　基盤研究（B）「鮮新・更新世古地理の高精度復元」

鈴木毅彦　平成 17 年度科学研究費補助金　基盤研究（C）(2)「火山噴出物をもちいた小起伏面の発達史的研究」

気候学研究室

教　授：　三上岳彦
准教授：　篠田雅人
研究員：　中野智子
客員研究員：　エドモンド　ラナトゥンゲ
ナチン
財城真寿美
松本　淳（2005 年 11 月 1 日～）
田中博春（2006 年 1 月 1 日～）
大学院（博士課程）：　根本　学・永田玲奈（2005 年 10 月 1 日～研究生）・赤坂郁美
大学院（修士課程）：　栗田蓉子・小池崇子・平野淳平・大久保さゆり・関田也寸志・大和広明
卒研生：　飯田義彦・伊藤俊介・植村　敦・田村　譲・藤岡真衣・山本卓臣・
吉成祐羽子

気候学研究室では、都市・盆地といったマイクロスケールからグローバルスケールの気候変動に関することまで、様々なスケールにおける「気候形成」の理解を目指した研究を行っている。研究手法も多岐にわたり、現地での気象観測・観測資料の収集・気候データセットを用いた数値解析など、様々な手法を用い、気候の復元や気候形成のプロセス・メカニズムの理解に向けて取り組んでいる。本研究室で行われている研究としては、次のようなものがある。

・都市気候の研究（ヒートアイランド・クールアイランドの観測と分析、都市型集中豪雨の解析等）
・気候変動（歴史時代・観測時代）の研究
・古気象観測記録のデータベース化に関する研究
・アジアの降水変動と ENSO の関係に関する研究
・乾燥地域における気候と植生・土壌水分・積雪の相互作用
・干ばつの発生メカニズムと生態系に及ぼす影響評価・砂漠化指標の開発
・シベリアの陸面における温室効果気体の発生・吸収
・半乾燥地の草原生態系における二酸化炭素交換の観測

【研究業績】

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

三上岳彦　2005．過去 1000 年間の気候変動と 21 世紀の気候予測．地学雑誌 114：86-91.

三上岳彦 2005. 都市のヒートアイランド現象とその形成要因　ー東京首都圏の事例研究. 地学雑誌, 114: 496-506.

篠田雅人・森永由紀: モンゴル国における気象災害の早期警戒システムの構築に向けて. 地理学評論, 第 78 号, 第 13 号, 928-950, 2005 年 11 月.

Tsunekawa, A., T. Ito, M. Shinoda, M. Nemoto, T. Suhama, H. Ju, and H. Shimizu: Methodology for assessment of desertification based on vegetation degradation using Net Primary Productivity (NPP) as a key indicator. Phyton (Austria) Special issue: "APGC 2004", Vol. 45, Fasc. 4, 185-192, November 2005.

Nakano, T., Takeuchi, W., Inoue, G., Fukuda, M., and Yasuoka, Y. 2006. Temporal variations in soil-atmosphere methane exchange after fire in a peat swamp forest in West Siberia. Soil Science and Plant Nutrition 52: 29-40.

Zaiki,M., Konnen,G.P., Tsukahara,T., Jones,P.D., Mikami,T. and Matsumoto,K. 2006. Recovery of nineteenth-century Tokyo/Osaka meteorological data in Japan. International Journal of Climatolog 26: 399-423.

高木哲也・小口　高・財城真寿美・松本　淳 2005. バングラデシュを対象とした地形・地質研究. 地形 26-4：405-422.

永田玲奈・三上岳彦 2005. 1970 年代後半におけるエルニーニョ現象と東アジア夏季降水頻度の関係にみられる変化. 季刊地理学, 57: 96－107.

その他の論文（査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む）

三上岳彦 2006. 都市のヒートアイランド現象. 環境浄化技術, Vol.5, No.4, 1-4.

Tamura,H., Ishi,K., Yokoyama,H., Iwatsubo,T., Hirakuchi,H., Ando,H., Yamaguchi,T., Mikami,T., Ichino,M. and Akiyama,Y. 2006. Numerical prediction of heat island mitigation effect on decrease in air temperature in Tokyo. In Ext. Abst., AMS 6th Symposium on the Uraban Environment, JP1.10

Mikami,T. 2005. Tokyo: Cooling Rooftop Gardens. In “Green Roofs - Ecological Design and Constitution”, Earth Pledge, New York, 113-116.

三上岳彦 2005. ヒートアイランド. Japan Geoscience Letters, Vol.1, No.2, 1-3.

三上岳彦・塚原東吾・財城真寿美 2005. 1800 年代前半の地球寒冷化　ー太陽・火山活動との関連ー. 月刊地球, 27: 673-677.

Demaree,G.・三上岳彦 2005. 1783 年のラキ（アイスランド）・浅間（日本）火山噴火による気候への影響. 月刊地球, 27: 687-692.

塚原東吾・財城真寿美・松本佳子・三上岳彦 2005. 日本の機器観測の始まり　ー誰が、どのような状況で始めたのかー. 月刊地球, 27: 713-720.

三上岳彦 2005. ヒートアイランド現象と都市型集中豪雨. 下水道協会誌, Vol.42, No.512, 4-6.

三上岳彦 2005. ヒートアイランド現象のメカニズム. 新都市, Vol.59, No.7, 10-14.

三上岳彦 2005. 都市がつくる気候環境. 中村和郎・岩田修二・新井　正・米倉伸之編「日本の地誌 1　日本総論Ⅰ（自然編）」朝倉書店, 268-272.

横山　仁・安藤晴夫・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・石井康一郎・三上岳彦 2005．夏期における東京都区部のヒートアイランドの実態について－2002 年～ 2004 年における METROS 観測結果－．東京都環境科学研究所年報　2005，3-9．

田村英寿・石井康一郎・横山仁・岩坪哲四郎・平口博丸・安藤晴夫・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・三上岳彦 2005．東京 23 区におけるヒートアイランド対策導入効果の数値予測．東京都環境科学研究所年報　2005，10-18．

市野美夏・秋山祐佳里・安藤晴夫・横山仁・山口隆子・石井康一郎・三上岳彦 2005．低気圧通過時における東京都区部にみられた気温変化の地域特性 －2004 年 12 月 5 日早朝の異常昇温時の事例－．東京都環境科学研究所年報　2005，25-32．

三上岳彦・大和広明・安藤晴夫・横山仁・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・石井康一郎 2005．東京都内における夏期の局地的大雨に関する研究．東京都環境科学研究所年報　2005，33-42．

Yasunari, T, R. Kawamura, and M Shinoda: Land-atmosphere interaction. In Chang, C.-P., B. Wang, and N.-C. G. Lau eds.: The Global Monsoon System: Research and Forecast. (Report of the International Committee of the Third International Workshop on Monsoons (IWM-III), 2-6 November 2004, Hangzhou, China). WMO Technical Document No. 1226, 313-325, 2005.

Tachiiri, K., Shinoda, M., Morinaga, Y. Ganbaatar, T., Bayasgalan, M., Erdenetsetseg, B., Erdenetuya, M. and Klinkenberg, B.: Remote sensing analysis of drought and dzud from 1999 to 2002: toward the development of an effective early warning system. Proceeding of the International Conference on natural resources and sustainable development in surrounding regions of the Mongolian Plateau, 22-24 August 2005. 190-193, August 2005.

中野智子・根本　学・篠田雅人　2006．　モンゴル半乾燥草原における密閉式チャンバー法を用いた CO_2 フラックス測定．　国立環境研究所地球環境研究センター編 CGER-REPORT『炭素循環および温室効果ガス観測ワークショップ講演要旨集』，150-151．

財城真寿美・塚原東吾・三上岳彦・松本佳子 2005．日本における 19 世紀以降の古気象記録とその気候学的意義．月刊地球，27: 706-712．

財城真寿美・小口　高・香川雄一・高橋昭子・小池司朗・山内昌和 2005．日本における居住地の分布と地形との関係－GIS を利用した市区町村単位の検討－．東京大学空間情報科学研究センター Discussion Paper Series 68, 1-13.

Nagata, R., Mikami, T. and Tamiya, H. 2005. Precipitation Patterns over the Midwestern United States during El Nino and La Nina events. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University 40: 13-20.

編著書（単著・共著・編集など、分担執筆は含まない）

三上岳彦監修 2005．『東京・異常気象』羊泉社，94p.

報告書

三上岳彦 2006．「日本における 19 世紀気象観測記録の収集とその歴史気候学的分析」　平成 15 年度～平成 17 年度　科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書，121p.

篠田雅人 2005．モンゴルにおける干ばつとゾドの相乗作用．第 9 回（2003 年度）環境助成研究成果報告書（昭和シェル石油環境研究助成財団），70-72．

高木哲也・小口　高・財城真寿美・松本　淳 2005．バングラデシュを対象とした地形・地質研究の歴史．松本　淳（編）「アジアモンスーン地域の洪水史と長期気候・環境変化」平成 14-16 年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（A）・研究成果報告書，24-37．

<u>書評</u>

篠田雅人：赤木祥彦著『沙漠化とその対策―乾燥地帯の環境問題―』(書評)地理学評論 79A，124-125，2006．

<u>その他の報文（技術レポート、商業誌、解説・雑録など）</u>

三上岳彦 2005．ヒートアイランド現象で亜熱帯化する TOKYO．週刊エコノミスト，Vol.83，No.49，91-93．

篠田雅人 2005．自然環境としての草原．小松　久男・梅村 坦・宇山 智彦・帯谷 知可・堀川 徹編『中央ユーラシアを知る事典―ウズベキスタン+カザフスタン+クルグズスタン+タジキスタン+トルクメニスタン+アゼルバイジャン+アルメニア+グルジア+アフガニスタン+ロシア連邦+中国』平凡社，624p，296-297．

篠田雅人 2005．　砂漠化．日本第四紀学会 50 周年記念電子出版編集委員会編『第四紀 電子出版』日本第四紀学会，http://staff.aist.go.jp/t-azuma/QR_CD/07/0701.html

Shinoda，M. 2005. An approach linking vegetation geography and plant Ecophysiology: Field observations. Geographical Review of Japan，Vol.78，No.12，284.

中野智子 2005．　2004 年度春季極域・寒冷域研究連絡会の報告「永久凍土地帯の炭素循環」，天気，52(6)、67－68．

<u>講演・学会発表</u>

Mikami,T.，Ando,H.，Yokoyama,H.，Yamaguchi,T.，Izumi,T. And Ishii,K. 2005. Spatial and temporal variations of summer urban heat islands in Tokyo. The 16th Regional Conference of Clean Air and Environment in Asian Pacific Area，Tokyo.

Mikami,T. 2005. Significance of monitoring around the Cheong-Gye stream. The Korea-Japan Joint Workshop on the Cheong-Gye Stream Restoration，Seoul.

Bai,I. And Mikami,T. 2005. Meteorological observation on mitigation of the summer thermal stress: A case study of Cheong-Gye Stream Restoration Project. The Korea-Japan Joint Workshop on the Cheong-Gye Stream Restoration，Seoul.

三上岳彦・安藤晴夫・横山　仁・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・石井康一郎 2005．東京の夏期ヒートアイランドに及ぼす海風の効果．　日本気象学会 2005 年度春季大会，東京．

横山　仁・安藤晴夫・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・石井康一郎・三上岳彦 2005．2004 年夏期の東京都区部におけるヒートアイランドの実態について．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京

安藤晴夫・横山　仁・山口隆子・市野美夏・秋山祐佳里・石井康一郎・三上岳彦 2005，　2004 年 8

月 10 日に都区部で観測された局地的降雨時の気象状況について．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京
山口隆子・安藤晴夫・横山　仁・秋山祐佳里・市野美夏・石井康一郎・三上岳彦 2005．2002 年 8 月～2004 年 10 月の東京都区部における気温分布の特徴について．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京
市野美夏・秋山祐佳里・安藤晴夫・横山　仁・山口隆子・石井康一郎・三上岳彦 2005．METROS で捉えた東京都心部における風系．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京
秋山祐佳里・市野美夏・安藤晴夫・横山　仁・山口隆子・石井康一郎・三上岳彦 2005．東京都区部における 2004 年 12 月 5 日の異常昇温．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京
仁科淳司・三上岳彦 2005．夏季静穏日における東京都区部の局地気圧系の日変化．日本地理学会 2005 年度秋季学術大会，水戸．
増田幸宏・瀬野太郎・佐藤円佳・田村健・成田健一・三上岳彦・高橋信之・尾島俊雄 2005．東京湾臨海部における海風の動きと冷却効果に関する研究（その１）　実測調査概要・結果．2005 年度建築学会大会（近畿）学術講演会
田村　健・瀬野太郎・佐藤円佳・増田幸宏・成田健一・三上岳彦・高橋信之・尾島俊雄 2005．東京湾臨海部における海風の動きと冷却効果に関する研究（その２）　海風の動き及び冷却効果．2005 年度建築学会大会（近畿）学術講演会
Sugawara, H., Narita, K., Sha, W., Mikami, T., Honjo, T., Tanaka, H. and Nakano, T. 2005. Nocturnal cold outflow from large urban park. The 4th Japanese-German Meeting on Urban Climatology, Tsukuba, Japan.
Hamada, H., Ichinose, T., Tanaka, H. and Mikami, T. 2005. Effect of mountain breeze on urban heat island in Nagano, Japan. Nocturnal cold outflow from large urban park. The 4th Japanese-German Meeting on Urban Climatology, Tsukuba, Japan.
三上岳彦 2005．都市内大規模緑地のクールアイランド効果．流山グリーン・チェーン戦略研究会設立記念シンポジウム，流山市
三上岳彦 2006．都市の気候変化と首都圏への社会影響．センシングネットワークシンポジウム（独立行政法人・情報通信研究機構主催），東京．
三上岳彦 2006．地球温暖化と都市の高温化 ～深刻化する東京のヒートアイランド～．平成 17 年度気候講演会（気象庁主催），東京．
三上岳彦 2006．都市化におけるヒートアイランド現象と緑地のクールアイランド効果．第 5 回奈良女子大学共生科学研究センターシンポジウム，奈良
三上岳彦 2006．地球温暖化と都市のヒートアイランド．首都大学東京オープンユニバーシティ特別講演会,東京
白　迎玖・三上岳彦 2006．中国・上海における都市ヒートアイランド現象の実態解明に関する研究．日本地理学会 2005 年度春季学術大会，さいたま．
Tachiiri, K., Shinoda, M., Morinaga, Y. Ganbaatar, T., Bayasgalan, M., Erdenetsetseg, B., Erdenetuya, M. and Klinkenberg, B. 2005. Remote sensing analysis of drought and dzud from 1999 to 2002: toward the development of an effective early warning system. The International

Conference on natural resources and sustainable development in surrounding regions of the Mongolian Plateau.

篠田雅人・恒川篤史・根本学・ﾅﾁﾝｼｮﾝﾎﾙ G.U.・中野智子・田村憲司・浅野眞希・ｴﾙﾃﾞﾈﾂｪﾂｪｸﾞ D. 2006. モンゴル草原における干ばつ実験 ―その生態気候学的意義―. 日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま.

篠田雅人・森永由紀 2005. モンゴル国における干ばつ・ゾドの早期警戒システムの構築に向けて. 日本地理学会 2005 年度秋季学術大会，水戸.

森永由紀・小池崇子・篠田雅人・バットオユン・ツェレンプーレヴ・ゴンボルーデブ・プレブジャヴ 2005. モンゴルの干ばつ・ゾドの気候学的研究. 日本地理学会 2005 年度秋季学術大会，水戸.

篠田雅人・恒川篤史・根本学・ナチン・中野智子・田村憲司・浅野眞希・D.ｴﾙﾃﾞﾈﾂｪﾂｪｸﾞ 2005. 干ばつ実験とその生態気候学における意義. 日本気象学会 2005 年度秋季学術大会，水戸.

中野智子・根本 学・篠田雅人 2005. モンゴル半乾燥草原における密閉式チャンバー法を用いた CO2 フラックス測定. 炭素循環および温室効果ガス観測ワークショップ，東京.

Takeuchi, W., Nakano, T., Ochi, S., and Yasuoka, Y. 2005. Estimation of methane emission from West Siberian Lowland using unmixing technique between ASTER and MODIS, 27th ASTER Science Team Meeting (ASTM), Tokyo International Forum, Tokyo.

中野智子・根本 学・篠田雅人 2005. モンゴル半乾燥草原における 2004 年夏季の CO2 フラックス、農業環境工学関連 7 学会 2005 年合同大会、金沢.

Nakano, T. 2005. Change in surface methane flux after a forest fire in West Siberia, International Symposium on "The symptom of environmental change in Siberian Permafrost Region", Sapporo.

財城真寿美・香川雄一・小口　高・小池司朗・山内昌和 2005. 日本における居住地の分布と地形との関係―GIS を利用した市町村単位の考察―. 東京大学　空間情報科学研究センター
第８回年次シンポジウム - CSIS DAYS 2005 -，千葉.

Zaiki, M. and Jones, P.D. 2005. "Extension and reconstruction of long MSLP series and indices -Dutch/Japanese data-". GCOS AOPC/OOPC Surface Pressure Working Group 3rd meeting, Exeter, UK.

Zaiki, M., Konnen, G.P., Tsukahara, T., Jones, P.D., Mikami, T. and Matsumoto, K. 2005. Recovery of 19th century Tokyo/Osaka meteorological data in Japan. American Geophysical Union Fall Meeting 2005. San Francisco, US.

香川雄一・小口　高・財城真寿美・小池司朗・山内昌和・江崎雄治 2006. 東京大都市圏における駅の乗降客数の分布に関する分析. 日本地理学会春季学術大会，さいたま.

田中博春・三上岳彦 2005. 汐留地区のビル群が海風の風下地域に及ぼす影響評価―パイロットバルーンを用いた鉛直観測の結果から―. 日本気象学会 2005 年度秋季大会，神戸.

田中博春・中野智子・三上岳彦・菅原広史・成田健一 2006. 新宿御苑内外での夜間の気温鉛直構造. 日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま

根本 学・篠田雅人 2005. モンゴル草原におけるイネ科植物の蒸散活動. 農業環境工学関連 7 学会 2005 年合同大会，　金沢.

赤坂郁美・森島　済・三上岳彦 2005.　フィリピンにおける雨季入り・雨季明けの経年的特徴.日本気象学会 2005 年度春季大会,東京.

赤坂郁美・森島　済・三上岳彦 2006.フィリピンにおける降水量の年々変動に関連した風の変化.日本地理学会 2005 年度春季学術大会，さいたま.

平野淳平・三上岳彦 2006．天気分布型からみた 19 世紀の冬季における気候変動．日本地理学会 2005 年度春季学術大会，さいたま.

大久保さゆり・三上岳彦 2005．地域気象観測網を用いた房総不 連続線出現時のＳＰＭ・気象要素の空間分布．大気環境学会第 46 回学術大会，名古屋.

【研究補助金の取得】（研究代表者のみ）

三上岳彦：文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B)「日本における 19 世紀気象観測記録の収集とその歴史気候学的分析」

篠田雅人：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)(海外学術)

篠田雅人：日本気象協会寄附金「モンゴル国における干ばつ/ゾド早期警戒システムの構築」

中野智子：文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)「ゼニゴケ被覆面におけるメタン吸収の通年観測とメカニズム解明」

財城真寿美：日本学術振興会科学研究費補助金　特別研究員研究奨励費（神戸大学）「東アジアにおける 19 世紀気象観測記録の補正均質化とその気候変動研究への応用

【受賞】

根本　学：農業気象学会奨励賞

環境地理学研究室

教　授：　堀　信行
准教授：　岡　秀一
助　手：　大山修一
研究生：　浦田健作
大学院（博士課程（後期））：　ファール ウスマン・中台由佳里・小橋寿美子
大学院（修士課程・博士課程前期）：　藤代達也・伊藤久朗・川平夏也・朝日知恵子・坂根真理子・白川亜沙子・諏訪部康太郎・渡辺雅樹
卒研生：　矢加部友・桜井優香・土屋俊幸・浅沼直子・石井大生

この研究室では、環境と人類とのダイナミックな関係、そのグローバル性に着目しながら地球環境の自然変動とその人為的な変動の機構を、いろいろな時・空間スケールで捉えて、総合的・学際的アプローチによって解明しようとする研究を展開している。そのため、伝統的な自然地理学の枠のなかにとらわれず、自然・人文にわたる環境諸科学と密接な連携を保ちながら、柔軟かつ幅の広い研究活動を実施している。研究方法としては、フィールド・ワークと現地における観測や計測調査、参与観察を基本としながらも、空中写真や衛星観測データ等の利用・解析を重用している。研究地域は、国内はもとより、広く海外に及んでいる。海外では、アフリカ地域の環境変動と人間対応、南・北アメリカやシベリア地域の植生と気候景観、熱帯海域のサンゴ礁およびヨーロッパも含むカルスト景観、マングローブ植生の解明、さらにアフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕民の文化生態的研究に重点を置いている。最近の主要なテーマには、以下のものがある。

１）アフリカのサバンナ地域における環境変動と人間対応に関する研究
２）サバンナ化・砂漠化・荒廃景観の形成など、環境劣悪化のプロセス研究
３）サンゴ礁形成論および造礁サンゴ群集と礁地形の相互関係に関する研究
４）高山・亜高山の自然景観とその変動をめぐる地生態学的研究
５）亜熱帯島嶼小笠原における水文気候環境からみた植生景観形成に関する研究
６）植生や土地利用からみた気候景観の研究
７）アフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕社会の形成と農法の展開様式に関する文化地理学的研究
８）荒廃地の修復に関する応用生態学的研究
９）南米・アンデスにおけるラクダ科動物とナス科植物のドメスティケーションに関する研究
10）ポーランド　カルパチア山脈における環境利用に関する研究
11）ブナの遺伝子分布に関する研究
12）富士山箱根におけるササ植生の分布に関する研究
13）天竜川におけるダム建設による環境変化と地域社会に関する研究
14）富士山樹木限界における植生構造に関する研究

15) 伊豆半島の漁村における社会組織、生業形態の変容に関する研究
16) 沖縄における空間構造と生態環境に関する研究
17) 湿地の自然環境と人間利用に関する研究
18) 地域の特性と防災組織のあり方

【研究業績】

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

Oyama, S. 2005. Ecological knowledge of site selection and tree-cutting methods of Bemba shifting cultivators in northern Zambia. *Tropics* 14(4): 309-321.

大山修一・近藤　史 2005.　サヘルの乾燥地農耕における家庭ゴミの投入とシロアリの分解活動.　地球環境 10 (1): 49-57.

Kobashi S., Fujii, N., Nojima, A. and Hori, N. 2006. Distribution of chloroplast DNA haplotypes in the contact zone of *Fagus crenata* in the southwest of Kanto District, Japan. Journal of Plant Research. DOI 10.1007/s 10265-006-0271-5.

その他の論文（査読なしの論文，紀要・単行本の分担執筆を含む）

堀　信行 2005.　サンゴ礁の分布図　135 年. 中村和郎編『地図からの発想』古今書院 122-123.

菅　浩伸・中島洋典・大橋倫也・濱中　望・岡本健裕・中井達郎・堀　信行. 2005. 北琉球・馬毛島における北限域サンゴ礁の形成過程. 岡山大学　XX-XX.

岡　秀一　2005. 本州から九州までの景観. 中村和郎ほか編「日本の地誌」日本総論Ⅰ(自然編)196-205.

岡　秀一　2005. 富士山の樹木限界ー植物たちのもうひとつの山登りー. 第 4 回富士学会シンポジウムー富士と生きるー報告書, 66-75.

吉田圭一郎・飯島慈裕・岡　秀一　2006. 小笠原諸島における気象観測研究. 小笠原研究年報, 29. 1-6

Fall, O., Hori, N and Nakayama D. 2005. The integration of remotely sensed data and GIS in monitoring the Senegal River estuary: responses of the sand spit to anthropogenic driven changes. *Geographic Reports of the Tokyo Metropolitan University* 40:1-12.

Fall, O., Sane, M. and Hori N. 2005. Assessment of the impacts of an artificially opened mouth on the sand spit of the Senegal River estuary and on dependent livelihood. *Proceedings of the International Symposium on Fluvial and Coastal Disasters*. 33:1-10.

渡辺雅樹・小林　正和・佐々木　寧　2005.　河川・水辺湿地における自然再生モニタリングに関する研究.　多自然研究 122: 5-8.

渡辺雅樹・小林　正和・佐々木　寧　2006.　水辺湿地における優占植物の冠水ストレスによる影響. 多自然研究 126: 3-7.

編著書（単著・共著・編集など，分担執筆は含まない）

なし

報告書

岩田修二・菊池俊夫・岡　秀一・鈴木毅彦　2006．自然環境の保全と適正利用・管理を担う人材養成のための調査．東京都環境局委託調査報告書，213p.

岡　秀一　2006．信州大学でのレンジャーや自然保護指導員の教育．岩田修二編「レンジャーと自然保護指導者の活動とその教育」平成 16 年度東京都立の大学における傾斜的配分研究費報告書，66-68.

岡　秀一　2006．日本の大学・専門学校で行われているレンジャー教育の事例．岩田修二編「レンジャーと自然保護指導者の活動とその教育」平成 16 年度東京都立の大学における傾斜的配分研究費報告書，75-79.

岡　秀一　2006．レンジャー、ボランティア・レンジャー養成教育のあるべき姿．岩田修二編「レンジャーと自然保護指導者の活動とその教育」平成 16 年度東京都立の大学における傾斜的配分研究費報告書，80.

岡　秀一・藤代達也　2006．東京およびその周辺における植生変遷．「地理的手法による大都市東京の環境基盤の解明と居住環境の安全性・快適性評価に関する研究」平成 16 年度東京都立の大学における傾斜的配分研究費（研究代表者岩田修二）報告書，39-41.

書評

大山修一 2005．新刊紹介：アフリカ自然学（水野一晴 編）．熱帯生態学会ニューズレター，　60: 9.

その他の報文（技術レポート，商業誌，解説・雑録など）

堀　信行　2005.「ゆいむん」地名考：与論島の百合が浜から斎場御嶽のユインチ（寄満）.「南島の地名　第 6 集（仲松弥秀先カジマヤー記念号）」 171-176.

堀　信行　2005.　地図を考える:図・地図（map/carte）・海図（chart）・アトラス．中村和郎編『地図からの発想』古今書院，2-3.

大山修一　2006．新規の研究に挑戦する契機に.「財団法人 福武学術文化振興財団　創立 20 周年記念誌 1985- 2005」財団法人 福武文化振興財団．25.

講演・学会発表

堀　信行　2005．櫻の風景の成立．生涯教育機構「めぐろシティカレッジ」開校式講演，東京.

堀　信行 2005．アフリカ、サバンナの農牧地域に分布する *Acacia Albida* をめぐる景観分析．（社）東京地学協会春季講演会，東京.

菅　浩伸・中島洋典・大橋倫也･濱中望・岡本健裕・中井達郎・堀　信行　2005．北琉球･馬毛島における北限域サンゴ礁の形成過程・日本サンゴ礁学会第 8 回大会，沖縄.

岡　秀一　2005．富士山の樹木限界―植物たちのもうひとつの山登り―．第 4 回富士学会シンポジウム―富士と生きる―，東京.

岡　秀一　2005．自然の読み方②．首都大学東京オープンユニバーシティ「ボランティア・レンジャー養成講座」，東京.

岩田修二・菊地俊夫・岡　秀一・鈴木毅彦　2005. 山を歩く（野外実習）. 首都大学東京オープンユニバーシティ「ボランティア・レンジャー養成講座」, 東京.

吉田圭一郎・飯島慈裕・岡　秀一・見塩昌子　2006. 亜熱帯性の低木林に対する水文気候条件の影響―季節的な乾燥と固有植物の生育との関係―. 日本地理学会 2006 年度春季学術大会, 埼玉.

吉田圭一郎・飯島慈裕・岡　秀一・見塩昌子　2006. 亜熱帯島嶼の水文気候条件がシマイスノキの肥大成長の季節進行に及ぼす影響. 第 53 回日本生態学会大会, 新潟.

大山修一・近藤史・山本紀夫 2005. アンデスにおけるラクダ科野生動物ビクーニャと野生型ジャガイモの生態―ドメスティケーション研究にむけて. 熱帯生態学会第 15 回年次大会, 京都.

大山修一.　2005.　サヘルにおける砂漠化対策としてのシロアリ利用に関する応用生態学的研究. 環境科学総合研究所 第 24 回助成研究報告会, 熱海.

大山修一 2005.　アンデスにおけるラクダ科野生動物ビクーニャと野生型ジャガイモの生態―ドメスティケーション研究にむけて. 京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻文化人類学ゼミナール, 京都.

大山修一 2006.　ラクダ科野生動物とジャガイモ祖先野生種の生態. 国立民族学博物館共同研究会（山本紀夫代表）ドメスティケーションの民族生物学的研究, 大阪.

中台　由佳里　2006.　資源活用システムからみた山村の生活維持構造－日本の奥多摩とポーランドのカルパチア地域の事例から－. 日本地理学会 2006 年春季学術大会, 東京.

Nakadai, Y. Recent changes of alternative subsistence strategies in the Polish Carpathians, 2005. FAO-IGU-GECOAGRI Quality Agriculture: Historical Heritage and Environmental Resources for the Intergraded Development of Territories Colloquium, Rome, Italy

渡辺雅樹・佐々木寧　2005. 植生を指標とした湿地の自然再生の評価に関する研究. 環境情報科学第 2 回ポスターセッション, 東京.

【研究補助金の取得】（研究代表者のみ）

堀　信行：日本学術振興会 科学研究費補助金　基盤研究（A）海外学術「アフリカ･サバンナ帯の民族知と変化する環境との相克」

岡　秀一　日本学術振興会　科学研究費補助金　基盤研究（C)「富士山における樹木限界の動態と環境変動に関する研究」

大山修一　日本学術振興会　科学研究費補助金　若手研究(B)「地理情報システムによる牧畜民フラニの環境認識と移牧ルートの解明」

環境変遷学研究室

教　授：　岩田修二・福澤仁之
准教授Ｂ：　塚本すみ子
研究生：　青山雅史・五反田克也
大学院（博士課程）：　黒田真二郎
大学院（修士課程）：　小松哲也・縫村崇行（９月 30 日まで）・川崎俊明
卒研生：　山田和生・手代木功基・長山清香

本研究室では，歴史時代も含めた第四紀・第三紀の地球環境の変遷を解明し，環境変化の原因を解明する研究をおこなっている．氷河地形，深海底・湖底の堆積物，陸域表層部の地層・古土壌・植物微化石などの分析し，それらの年代測定データにもとづき，自然地理学的・堆積学的・生態学的視点からの地域的総合化による環境復元をめざしている．現在の主要な研究内容は以下の通りである．

１）第四紀末の地表環境変動と人類活動との関係に関する研究
・東アジア・中央アジアの山地・低地や湖沼や，周辺海域・海洋において，氷河地形・堆積物や湖成堆積物，そこでのレス・古土壌，花粉，さらに熱帯海洋のサンゴ年輪などの分析から，最終間氷期以降，歴史時代までの環境変遷の様相と人類活動との関係を野外調査によって明らかにする．
・東アジアの湖沼堆積物の粒度・鉱物・有機物組成から完新世の海水準変動，気候変動，地震などを検出して，先史以降の人類活動とこれらの環境変動との関係を明らかにする．
２）地球システムにおける氷床・海洋変動に関する研究
・海洋堆積物試料の分析や大陸氷床の地形の分析から，氷期・間氷期サイクルと海洋循環の関係，新生代氷河変動と氷河第四紀の形成過程と形成要因を解明する．
３）第四紀試料の年代測定
・堆積物の光ルミネッセンス（OSL）年代測定や，火山灰等の熱ルミネッセンス（ＴＬ）法による年代測定を行い，野外調査や分析によって得られた環境変化に時間軸を与える．

環境変遷学研究室では、過去の地球環境変動をグローバルかつローカルに高分解能に復元して、それらに記録された気候変動や人為的環境改変イベントを明らかにして、将来に持続可能な社会をつくる人間活動パラダイムを構築することを目指して 2005 年度は研究を推進した．過去の変動記録解明を日本列島のみならず、イースター島、グアテマラ、中国、韓国で行い、国内外のシンポジウムやワークショップで公表してきた．とくに、研究推進したテーマは次の６点である．１）過去の地球環境変遷研究の必要性と研究手法：ローマクラブの将来予測モデルと 2020 年問題（経済産業省との連携研究）、２）過去１万年間の気候・海水準変動に関する研究：太陽活動との関連（文科省地球観測探査技術研究促進費）、３）氷期-間氷期サイクルと将来予測に関する研究：軌道要素との関連（文科省地球観測探査技術研究促進費）、４）地球温暖化対策に関する研究：ネイチャーテック（Nature-Tech）（北海道・住宅建材企業との連携研究）、５）環境評価に関する研究：自然再生・修復・保全への取

組（富山県・北海道との連携研究）、６）都市における環境利用史に関する研究：海面変動を利用した都市：江戸（人文・社会系考古学研究室との連携研究）

【研究業績】

原著論文・展望論文（外部査読付き）

岩田修二　2005. 周氷河地形の多様性と脆弱性. 地球環境, 10：153-162.

松山　洋・黒田真二郎・蟹江美由紀・岩田修二・カダル＝ケズル 2005. 粗大礫により構成される周氷河岩屑斜面の形成環境. 地学雑誌. 114(4)：643-649.

Kariya, Y., Iwata, S., and Inamura, T. 2005. Geomorphology and Pastral-agricaltural land use in Cotahuasi and Puica, southern Peruvian Andes. Geographical Review of Japan, 78: 842-852.

Naito, N., Ageta, Y., Iwata, S., Matsuda, Y., Suzuki, R., Karma, Yabuki, H. 2006. Glacier shrinkages and climate conditions around Jichu Dramo Glacier in the Bhutan Himalayas from 1998 to 2003. Bulletin of Glaciological Research, 23: 51-61.

澤柿教伸・福井幸太郎・岩田修二　2005. 地球の地形から火星を読み解く-巨大洪水地形と火星地形-. 雪氷, 67：163-178.

Fukusawa, H. 2006 : High-resolution reconstruction of paleo-environments by varved maar sediments in Japan and the Easter Island: On future prediction of climate changes and proposal for conservation of sustainable environments. Special Volume of Jounal of Korean Society of Greenland and Environment. 4-8. Korean Society of Greenland and Environment,

Tanimura, Y., Kato, M., Fukusawa, H., Mayama, S., and Kazumi Yokoyama, K., 2006. Cytoplasmic masses preserved in Early Holocene diatom: A possible taphonomic process and its paleo-ecological implications. J.Phycol.42, 270-279.

山田和芳・福澤仁之　2005. レス・湖沼堆積物記録からみたアジアモンスーンと氷期-間氷期サイクルの関係. 地質学雑誌、111(11)：679-692.

塚本すみ子・岩田修二　2005. ルミネッセンス年代測定法の最近の進歩-適用年代の拡大と石英の OSL 成分について-. 地質学雑誌, 111: 643-653.

Watanuki, T, Murray, A. S. and Tsukamoto, S. 2005. Quartz and polymineral luminescence dating of Japanese loess over the last 0.6 Ma: comparison with an independent chronology. Earth and Planetary Science Letters, 240: 774-789.

Jain, M., Boetter-Jensen, L., Murray, A. S., Denby, P.M., Tsukamoto, S., and Gibling, M.R. 2005. Revisiting TL: Dose measurement beyond the OSL range using SAR. Ancient TL, 23: 9-24.

Aoyama, M. 2005. Rock glaciers in the northern Japanese Alps: palaeoenvironmental implications since the Late Glacial. Journal of Quaternary Science 20: 471-484.

Nakagawa, T., Kitagawa, H., Yasuda, Y., Tarasov, P. E., Gotanda, K. and Sawai, Y. 2005. Pollen/event stratigraphy of the verved sediment of Lake Suigetsu, central Japan from 15,701 to 10,217 SG vyr BP (Suigetsu verved years before present): Description, interpretation,

and correlation with other regions. Quaternary Science Reviews, 24: 1691-1701.

Nakagawa, T., Tarasov, P. E., Kitagawa, H., Yasuda, Y., Gotanda, K., Sawai, Y. and YRCP members. 2006. Seasonally specific responses of the east Asian Monsoon to deglacial climate changes. Geology, in press.

その他の論文

福澤仁之　2006. みくりが池年縞堆積物からみた立山信仰の開始-なぜ、人は立山に登ったのか？-. 安田喜憲編著：山岳信仰と日本人,125-146,NTT 出版.

Fukusawa,H., Megumi Kato, M.,Gotanda K., and Yasuda,Y. 2005. Did climatic changes have adramatic effect on the Easter Island civilization? Monsoon, 6: 32-35.

Yasuda,Y., and Fukusawa,H., 2005. Coincide of the collapse of Maya Civilization and the Bal-He- Kuk Kingdam in Korean Peninsula. Monsoon, 6: 22-25.

福澤仁之 2005.　湖沼年縞堆積物による中世温暖期以降の気候変動と登山活動の関係史. 月刊地球,27(9)：665-662.

編著書（単著・共著・編集など，分担執筆はふくまない）

中村和郎・新井　正・岩田修二・米倉伸之　2005. 『日本の地誌１日本総論 Ⅰ 自然編』朝倉書店.

菊地俊夫・岩田修二　2005. 『地図を学ぶ-地図の読み方・作り方・考え方-』二宮書店.

報告書

岩田修二　2005. 地形　非火山山地の起伏. 日本山岳会(編)『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版, 55-71.

岩田修二　2005. 山の暮らしと産業. 日本山岳会（編）『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版, 107-116.

岩田修二　2005. 環境破壊と自然保護. 日本山岳会（編）『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版, 117-125.

岩田修二　2005. 山地別解説　近畿地方. 日本山岳会(編)『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版, 164-170.

岩田修二　2005. 山地別解説　中国地方. 日本山岳会(編)『新日本山岳誌』ナカニシヤ出版, 171-177.

豊田新・塚本すみ子・鈴木毅彦　2006. 平成 15-17 年度科学研究費補助金・基盤研究Ｂ（１）成果報告書『ＥＳＲ法、ＴＬ法、ＯＳＬ法による第四紀テフラの年代測定と相互比較』.

Nuimura, T., Asahi, K., Fukui, K., Komatsu, T., and Ageta, Y. 2006 (in press). Survey data of Khumbu Glacier in 2004. “CREH Data Report 4” Institute for Hydrospheric-Atmospheric Sciences, Nagoya University and Department of Hydrology and Meteorology, HMG of Nepal.

Komatsu, T. 2006 (inpress). Data on landslides, slope failures and their related phenomena on and around glacier moraines in the Sagarmatha(Everest)region, Khumbu Himal “CREH Data Report 4” Institute for Hydrospheric-Atmospheric Sciences, Nagoya University. and Department of Hydrology and Meteorology, HMG of Nepal.

書評

なし

その他の報文（技術レポート，解説，雑録など）

岩田修二　2005　第四紀学が予測する近未来の環境-地質科学総合研究連絡委員会　第四紀学専門委員会の活動からー．「学術の動向」2005-9，80-81.

青山雅史 2005．凍結破砕.小疇尚研究室編「山に学ぶ　歩いて観て考える山の自然」古今書院,40-41.

青山雅史 2005.岩石氷河.小疇尚研究室編『山に学ぶ　歩いて観て考える山の自然』古今書院,56-57.

講演

福澤仁之 2005.地球環境の変遷と文明の盛衰：人間活動に対する気候変動の影響日本気象学会公開シンポジウム「地球環境の進化と気候変動」,東京大学、2005 年 5 月 15 日.

Fukusawa,H. 2005.　Snow accumulation changes and human impacts during last 2,850 years detected from varved sediments of Lake Mikuri in the Tateyama Volcano, central Japan. Joint Meeting for Earth and Planetary Science at Makuhari, Chiba, 2005.5.26.

柳田 誠・佐々木俊法・須貝俊彦・藤原 治・守屋俊文・宮城豊彦・守田益宗・古澤 明・福澤仁之 2005.岐阜県瑞浪市大湫における盆地堆積物調査（予報）．日本第四紀学会 2005 年度大会一般講演（島根大）,2005 年 8 月 26 日.

福澤仁之 2005.湖沼年縞堆積物による地球環境変遷の将来予測：環境歴史学と 2020 年問題．日本第四紀学会普及講演会「人は自然環境にどのように向き合うのか-過去から現在，未来まで-」（島根大）,2005 年 8 月 28 日.

福澤仁之 2005.地球環境の将来予測モデルとしての江戸期の環境変遷とその利用-2020 年問題の克服に向けて-．江戸の環境変遷と木造大都市形成にみる東京の基盤形成第１回研究集会（首都大学東京）,2005 年 10 月 5 日.

福澤仁之 2005．2020 年問題：イースター島からの提案-堆積物による地球環境変遷の将来予測-．東京地学協会秋季講演会,2005 年 10 月 22 日.

Yasuda, Y., and Fukusawa, H. 2005. What is sustainability of Civilization in Monsson Asia? International Symposium for "Sustainability of the Islands and Resource-Recycling Society" at Towada, Akita. 2005.10.26.

Yasuda, Y. and Fukusawa, H. 2005. Coincide of the collapse of Maya Civilization and the Bal-He- Kuk Kingdam in Korean Peninsula. International Symposium for "Sustainability of the Islands and Resource-Recycling Society" at Towada, Akita. 2005.10.26.

Fukusawa,H., Kato, M., Gotanda, K.,and Yasuda, Y.2005. Did climatic changes have a dramatic effect on the Easter Island civilization? International Symposium for "Sustainability of the Islands and Resource-Recycling Society" at Towada, Akita. 2005.10.26.

安田喜憲・福澤仁之 2005.渤海の滅亡とマヤ文明崩壊の不思議な一致．アジア湖沼掘削計画国内研究集会、秋田県小坂町,2005 年 10 月 27 日.

福澤仁之 2005．イースター島の文明の興亡に気候変動は大きな影響を与えたか？アジア湖沼掘削計画国内研究集会、秋田県小坂町,2005 年 10 月 27 日.

福澤仁之・長山清香 2005．地球環境の将来予測におけるステージ 11 の重要性：瑞浪コアによる 50 万年前以降の環境変動検出．更新世中・後期における古気候の高精度復元を目指すワークショッ

プ（信州大）,2005 年 11 月 19 日.

福澤仁之 2005.人間は自然と共生できるのか？：The Early Anthropogenic Hypothesis について．滋賀県立琵琶湖博物館研究公開発表会,2005 年 11 月 20 日.

福澤仁之：縄文・弥生時代における新石器化と現代化に関する新知見．NEOMAP 計画第１回研究集会、統合地球環境研究所（京都）,2005 年 11 月 24 日.

Fukusawa, H. 2005. High-resolution reconstruction ofpaleo-environments by varved maar sediments in Japan and Cheju island of Korea: On future prediction of climate changes and proposal for conservation of sustainable environments. The International Symposium for Conservation and Restoration of Hanon Crater Wetland, 2005.11.25.

Fukusawa, H. 2006. High-resolution reconstruction of paleo-environments by varved maar sediments in Japan and the Easter Island: On future prediction of climate changes and proposal for conservation of sustainable environments. Symposium of Korean Society of Greenland and Environment at the International Conference Center of the Cheju,2006.1.20

福澤仁之 2006.地球環境の将来予測モデルとしての縄文期と江戸期の環境利用：モンスーンアジアの気候・海面変動の高分解能解析．21 世紀の環境・経済・文明プロジェクト第５回研究集会,2006 月１月 22 日.

福澤仁之 2006．水田環境と地球環境の将来予測:水田漁撈はメタン発生を抑制するか？　国立歴史民俗博物館歴博共同研究「水田環境」第３回研究会,2006 年２月５日.

Tsukamoto, S., Denby, P. M., Murray, A. S., Botter-Jensen, L. 2005. Time-resolved pulsed luminescence of feldspars: new insights into fading. 11th International Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating, Cologne, Germany.

Tsukamoto, S. 2006. Luminescence dating method – a chronological tool for various Quaternary events. Open Research Center of Okayama University of Science International Symposium on Material Science and History of Earth and Sister Plantes, Okayama, Japan.

近藤玲介・塚本すみ子・大石雅之・橘　英彰 2005. OSL 年代測定によって推定された利尻ワンコノ沢テフラと利尻豊徳テフラの降下年代とその意義．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，千葉.

Kondo, R., Tsukamoto, S., Tachibana, H., Miyairi, Y., Yokoyama, Y.,2005. The formation age of the glacial and periglacial landforms in northern Hokkaido, using OSL dating of fine grain quartz. 11th International Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating, Cologne, Germany.

奈良間千之・塚本すみ子 2005.キルギス共和国，テルスケイアラトー山脈における氷河堆積物の OSL 年代．地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，千葉.

Narama, C., Kondo, R., Tsukamoto, S., Kajiura, T., Ormukov, C., and Abdrakhmatov, K. 2005. OSL Dating of Glacial Deposits during the Last Glacial Period in the Terskey-Alatoo Range, Kyrgyz Republic. 11th International Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance Dating, Cologne, Germany.

白井正明・塚本すみ子・氏家由利香・小松原純子・近藤玲介・大石雅之・芦寿一郎 2005．タービダイト砂の OSL 年代分布から推定される鉱物粒子の運搬履歴，日本堆積学会 2005 年例会，福岡.

白井正明・塚本すみ子・近藤玲介・大石雅之　2005. 現世河川の洪水堆積物中に存在する砂粒子の露光状況：OSL 年代測定法を応用した試み. 日本地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，千葉.

白井正明・塚本すみ子・近藤玲介・大石雅之　2005. OSL（光励起発光）現象を利用した現世河川の砂質粒子運搬－堆積過程に関する考察，日本地質学会，京都.

白井正明・塚本すみ子・近藤玲介　2006. 陸から深海までの砂の旅：OSL 強度測定を利用した試み. 日本堆積学会 2006 年例会，大阪.

宮入 陽介　塚本 すみ子　横山 祐典　2005. RTL 法によるテフラの年代測定　－ＡＴ火山灰試料を用いた検討－. 地球惑星科学関連学会 2005 年合同大会，千葉.

小松哲也　2006. Recent changes of landforms on and around debris-covered glaciers in the Sagarmatha (Everest) region, Khumbu Himal. 2006 年日本地理学会春季学術大会，埼玉大学.

縫村崇行・福井幸太郎・上田　豊・朝日克彦　2006. GPS 測量及び ASTER ステレオペア画像を用いた 1995 年から 2004 年までのネパール東部・クンブ氷河の表面変化. 2005 年度日本雪氷学会全国大会，旭川.

五反田克也・福澤仁之　2005. 西南日本の過去 2 万年間のバイオーム変遷. 地球惑星科学関連学会合同大会 2005 年大会，千葉.

【研究補助金の取得】（代表者のみ）

岩田修二：日本学術振興会科学研究費補助金　基盤研究(B)(２)「衛星画像による氷河・氷河湖の変動解明：モンスーンアジアと乾燥アジアでの比較」

青山雅史：東京地学協会平成 17 年度研究調査助成「中部山岳地域における最終氷期極相期以降の山岳永久凍土環境の変動とその地形変化への影響」

地理情報学研究室

助教授：　松山　洋
助　手：　泉　岳樹・中山大地
大学院（博士課程）：　島村雄一
大学院（修士課程・博士課程前期）：佐久間　進・堀江祐圭・長谷川宏一
卒研生：　江里口耕平・斉藤　仁・成宮博之

本研究室では、地形・気候・水文・植生などから構成される自然環境についての総合的理解を目指している。具体的には、質量保存・エネルギー保存・運動方程式などの物理法則に基づいて、原因から結果を説明しようとするアプローチと、フィールドでの調査・観測に基づいて事実を実証的に示そうとするアプローチを組み合わせて研究を進めている。このため、定量的データの収集・マッピング・統計解析・数値モデルなどを主要な方法論としている。教員の研究と大学院生・卒研生の指導、および地理学調査法(V) を通じて取り組んでいきたいテーマには次のようなものがある。

・大気圏・水圏のエネルギーと水の循環に関する研究
・積雪分布および積雪水資源量の把握と融雪-流出に関する研究
・スギ(針葉樹) の分光反射特性と葉面積指数の定量的評価に関する研究
・阿蘇山周辺の水循環に関する研究
・都市ヒートアイランド現象の数値シミュレーションに関する研究
・都市における地表面状態(アルベド、粗度、蒸発効率) の把握に関する研究
・ディジタル標高データによる流域単位の地形特性の定量的分析に関する研究
・ディジタル標高データおよびリモートセンシングを用いた地形モニタリングに関する研究
・インターネットと地理情報科学を用いた地理情報データベースの構築に関する研究

【研究業績】

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

Matsuyama, H., Miyaoka, K. and Masuda, K. 2005. Year-to-year variations of the stable isotopes in precipitation in February at Cuiabá, located on the northern fringe of Pantanal,Brazil. Journal of Hydrometeorology 6: 324-329.

島村雄一・泉　岳樹・松山　洋 2005. スノーサーベイとリモートセンシングに基づく山地積雪水資源量の推定-新潟県上越国境周辺を事例に-. 水文・水資源学会誌 18: 411-423.

Kezer, K. and Matsuyama, H. 2006. Decrease of river runoff in the Lake Balkhash basin in Central Asia. Hydrological Processes 20: 1407-1423.

松本優子・中山大地・松山　洋 2005. 台風経路標準度指数の提案-台風経路の定量的評価と異常経路の客観的抽出に関する研究-. 天気 52: 347-357.

藤原　靖・長谷川宏一・島村雄一・泉　岳樹・松山　洋 2005. 葉面積指数の直接推定法においてプロ

セスの違いとそれらの組み合わせが推定値に及ぼす影響-スギ人工林における事例-. 水文・水資源学会誌 18: 603-612.

その他の論文（査読無しの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む）

Matsuyama, H., Ichikawa, S. and Nakaegawa, T. 2005. Passive microwave remote sensing ofsoil moitsure in FIFE from 1987 to 1988. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University No. 40: 21-38.

松山　洋・黒田真二郎・蟹江美由紀・岩田修二・カダル=ケズル 2005. 粗大礫により構成される周氷河岩屑斜面の形成環境. 地学雑誌 114: 643-649.

Horie, Y., Izumi, T., Matsuyama, H. and Aoki, K. 2005. An observational study on the individualthermal sensations, skin temperatures and their relationship with exercise experiences.Program & Abstracts of the Third International Conference on Human-Environment System,172-175.

朝日新聞社出版事業本部事典編集部編/ 高橋伸夫・井田仁康・菊地俊夫・志村　喬・田部俊充・松山洋文と監修 2005. 『朝日ジュニアブック日本の地理 21 世紀』朝日新聞社: 224 p.

Fall, O., Hori, N. and Nakayama, D. 2005. The integration of remotely sensed data and GIS in monitoring the Senegal river estuary: responses of the sand spit to anthropogenic driven changes. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University No. 40: 1-12.

編著書（単著・共著・編集など、分担執筆は含まない）

なし

報告書

松山　洋 2006.『空間分解能の異なる衛星データを用いた積雪域の把握と融雪ー流出に関する実証的研究』(平成 15 年度～17 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 研究成果報告書) 144p. 首都大学東京都市環境学部地理学教室.

福澤仁之・松山　洋・若林芳樹・泉　岳樹・大山修一・武田祐子・中山大地 2006. 『地理情報システム(GIS) を中心とした問題発見・解決型デザイン教育のための研究』(平成 17 年度首都大学東京都市環境学部傾斜配分研究費報告書) 130 p. 首都大学東京都市環境学部地理学教室.

書評

松山　洋 2005. 書評(泉　桂子: 近代水源林の誕生とその軌跡-森林と都市の環境史). 地理学評論 78: 602-604.

松山　洋 2005. 新刊紹介(ワート・R・スペンサー著, 増田耕一・熊井ひろ美共訳: 温暖化の＜発見＞とは何か). 雪氷 67: 547.

松山　洋 2006. 書架(寿里順平: エクアドルーガラパゴス・ノグチ・パナマ帽の国ー). 地理 51(1):121.

松山　洋 2006. 書架(北川博史: 日本工業地域論グローバル化と空洞化の時代). 地理 51(2): 118.

松山　洋 2006．書架(水野一晴：ひとりぼっちの海外調査)．地理 51(3)：125．

松山　洋 2006．書架(植村善博：台風 23 号災害と水害環境-2004 年京都府丹後地方の事例-)，地理 51(4)：122．

その他の報文（技術レポート、商業誌、解説・雑録など）

松山　洋 2006．バルハシ湖紀行．天気 53：69-74．

中山大地 2006．GIS Day in 東京 2005．地理 51(1)：58-59．

講演

松山　洋 2005．バルハシ湖の水位変動・気候変動と民族の移動．イリ川プロジェクト研究会，京都．

松山　洋 2005．川の水文学－川の水環境を読み解く基礎－．平成 17 年度めぐろシティカレッジ「川から読み解く世界－川の流れに刻まれた生活文化」，東京．

松山　洋 2005．川の流れと気候環境－いろいろな環境を流れる河－．平成 17 年度めぐろシティカレッジ「川から読み解く世界－川の流れに刻まれた生活文化」，東京．

松山　洋 2005．身体で覚える GIS．GIS Day in 東京 2005，東京．

泉　岳樹 2006．自然資本百年の国づくり．環境省夜話集会(タウンミーティング)，東京．

島村雄一 2005．積雪深分布図に基づいた積雪深の不均一分布とスノーサーベイの代表性に関する研究．水文・水資源学会 2005 年度研究発表会，つくば．

島村雄一 2005．積雪深分布図に基づいた積雪深の不均一分布とスノーサーベイの代表性に関する研究-魚野川上流域を事例に-．日本地理学会 2005 年度秋季学術大会，水戸．

佐久間　進・中山大地・松山　洋 2006．分布型流出モデルを用いた比較水文学的手法に基づく流量未計測流域の流量推定について．日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま．

Horie, Y., Izumi, T., Matsuyama, H. and Aoki, K. 2005. An observational study on the individual thermal sensations, skin temperatures and their relationship with exercise experiences.International Conference on Human-Environment System (ICHES ’05), Tokyo.

長谷川宏一・松山　洋・都築勇人・末田達彦 2005．植生指標の値に太陽・センサの位置関係が及ぼす影響～カナダ北西部における山火事後の遷移段階にある植生を対象に～．水文・水資源学会 2005 年度研究発表会，つくば．

斉藤　仁・中山大地・松山　洋 2006．データマイニングによる地すべり流域の推定とその精度検証-ASTER データを用いて-．日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま．

成宮博之・斉藤　仁・中山大地・松山洋・鈴木啓助 2005．地球温暖化は水温・水質に影響を及ぼしているか？～阿蘇外輪山北麓域を例にして～．水文・水資源学会 2005 年度研究発表会，つくば．

成宮博之・中山大地・松山　洋 2006．東京都内の湧水における長期間の水温変動について．日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま．

Hoque, R. 2006. The 1998 flood in Bangladesh and Gumti River bank erosion. 日本地理学会 2006 年度春季学術大会，さいたま．

北村彩子・泉　岳樹・松山　洋 2005．空間分布を考慮した大気補正による衛星データからの地表面温度の推定．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京．

松本優子・中山大地・松山　洋 2005．台風が異常経路と典型経路をとるときの循環場の比較．日本気象学会 2005 年度春季大会，東京．

古谷真城・中山大地・松山　洋・中野智子 2005．観光鍾乳洞の気候特性と観光化の影響－東京都奥多摩町日原鍾乳洞を例として－．日本地理学会 2005 年度秋季学術大会，水戸．

Zhang, H., Hanaki, K., Sato, N., Izumi, T. and Aramaki, T. 2005. Meso-scale thermal environmental simulation of Tokyo with modified Regional Atmospheric Modeling System(RAMS). The 4th Japanese-German Meeting on Urban Climatology, Tsukuba.

【研究補助金の取得】（代表者のみ）

松山　洋:

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 「空間分解能の異なる衛星データを用いた積雪域の把握と融雪-流出に関する実証的研究」

財団法人福武学術文化振興財団平成 17 年度歴史学・地理学助成(学会・研究集会助成)「GIS Day in 東京 2006 (GIS の講演会および講習会)」

泉　岳樹:

日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B) 「GIS と都市気候モデルによる屋上緑化施策のヒートアイランド緩和効果の評価」

教育研究奨励寄付金(アジア航測株式会社) 「気候システム及び地理情報化に関する研究」

中山大地:

日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B) 「衛星画像と数値標高モデルを用いた流量未計測流域における流量推定に関する研究」

教育研究奨励寄付金(ジオテクノス株式会社) 「数値地形モデルを用いた地形計測に関する研究」

教育研究奨励寄付金(山川事務所) 「レーザー測量地形データを用いた地形解析に関する研究」

島村雄一:平成 17 年度笹川科学研究助成金「光学リモートセンシングによる林床積雪の抽出精度と植生密度との関係に関する研究」

都市・人文地理学研究室

教　授：	杉浦芳夫
准教授：	菊地俊夫・若林芳樹
助　手：	武田祐子・坪本裕之・原山道子
研究生：	鈴木晃志郎
大学院（博士課程）：	藤野明彦・矢部賢一（９月 30 日まで）・新井智一・小堀 昇（９月 30 日まで）・安達常将・小原則宏・矢部直人
大学院（修士課程・博士課程前期）：	山本育代・設楽律司・目黒 潮・吉倉卓也・桜井昌紀・寺下恵里
卒研生：	杉　信秀・有馬貴之・大矢　剛・金原慎一郎・小泉　諒・須貝健吾・冨樫孝太・中桐啓介

この研究室は，人文地理学の分野を研究するグループである．人間との関係における地域ないし空間の問題を，人文・社会科学的側面からアプローチし，多様な人文現象の構造的な説明・解釈を目的としている．現在行なわれている研究は，様々なレベルに分類できる．対象地域としては，都市とその周辺地域を中心とし，事象としては産業活動，人間行動や意識，その他の種々の人文・社会現象，方法論としては計量的方法，統計的実証的手法，および文献検証的手法が使われ，対象時期は歴史時代より現代までおよぶ．「専門は深く」，「関心は広く」を標語にして，次のような研究が行われている．

１．数理モデルによる人文地理的現象の解析：1)経済活動の立地，2)人・物の移動と情報の伝播，3)頭の中にイメージする地図と空間的行動，4)時間地理学的研究

２．地域研究による人文地理的現象の解析：1)人間や経済活動や文化活動と環境との関わり合いに関する研究，2)都市近郊における土地利用変化と諸事象の地域形成に関する研究，3)人間がつくる地域組織や社会組織に関する研究，4)環境変化にともなう人間活動の変容に関する研究

３．都市システムの解析：1)都市内部の空間構造の研究，2)都市群のシステム論的研究

４．地理思想の研究：1)現代地理学の研究史，2)地理学研究分野の計量書誌学的研究

【研究業績】

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

新井智一 2005. 東京都福生市における在日米軍横田基地をめぐる「場所の政治」. 地学雑誌 114:767-790.

矢部直人　2005. 東京大都市圏におけるソフトウェア産業の立地―ネスティッドロジットモデルによる分析―. 地理学評論. 78(8): 514-533.

矢部直人　2005. ソフトウェア産業の立地に対する国際貿易を考慮したシフトシェア分析. 人文地理. 57(4): 428-443.

矢部直人　2005. 幾何学的形態計測法による首都圏住宅地地価等値線図の分析. GIS―理論と応用.

13(2): 119-128.

その他の論文（査読無しの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む）

杉浦芳夫　2005.『三四郎』研究から地理学者が学んだ東京と日本. 漱石研究　18： 165-169.

杉浦芳夫・宮澤　仁　2005. 活動日誌から読み解く郊外女性の就業問題. 宮澤　仁編 ：『地域と福祉の分析法-地図・GIS の応用と実例-. 108-130. 古今書院.

杉浦芳夫　2006. ナチ・ドイツによるオーバーシュレージエン国境地域における中心 地ネットワーク再編計画. 理論地理学ノート　15：29-36.

Kikuchi, T. 2005. Recreating of the rurality and its sustainability in the urban fringe of Tokyo metropolitan area: a case study of Kodaira city. In International Geographical Union, Commissions of LUCC and SRS eds., *Land Use and Rural Sustainability*. Aberdeen, Scotland,132-136.

Kikuchi, T. 2005. A sociedada de arena como um sistema rural sastentavel e seus dissidents vistos on festival regional: um estudo de caso de Oizumi-machi como Liberdada do Japao, In A.M. Bicalho and S.W. Hoefle eds., *A Dimensao Regional e os Desafios a Sustentabilidade Rural*. Capes, Rio de Janeiro, Brazil, 494-505.

Kikuchi, T. and Obara, N. 2005. Recreating of rurality around the Totoro forest in the outer fringe of Tokyo metropolitan area: The spirituality of rurality. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University, 40, 39-52.

Kikuchi, T., Yamamoto, M. and Obara, N. 2005. Sustainable food system of Japanese organic vegetables from farmers to consumers. In Proceedings of 15th IFOAM Organic World Congress 2005 Shaping Sustainable Systems. Adelaide, South Australia, 256-265.

Obara, N., Walddichuk, T., Kikuchi, T. and Tateishi, J. 2005. Diversity of Canadian images and their collaboration in Japanese tourists. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University, 40, 53-65.

坪本裕之・樋口民夫　2005. 地形図で考える高齢者の日常生活と地域交通. 宮澤　仁編 ：『地域と福祉の分析法-地図・GIS の応用と実例-. 27-46. 古今書院.

鈴木晃志郎 2005.【学界展望：年間展望】知覚・行動. 人文地理 57(3): 59-60.

編著書（単著・共著・編集など、分担執筆は含まない）

菊地俊夫・岩田修二編著　2005.『地図を学ぶ－地図の読み方・作り方・考え方－』二宮書店. 204p.

高橋伸夫・菊地俊夫他著・監修　2005.『日本の地理　21 世紀』朝日新聞社. 224p.

報告書

杉浦芳夫　2005.『中心地理論のナチ・ドイツ国土計画への応用に関する研究』 平成 15～平成 16 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（２））研究成果報告書, 91ｐ.

岩田修二・菊地俊夫・岡　秀一・鈴木毅彦　2006.『自然環境の保全と適正利用・管理を担う人材養成のための調査』平成 17 年度東京都環境局委託調査報告書, 首都大学東京, 東京.

菊地俊夫　2006．ニュージーランドにおける自然保護とレンジャー活動．平成 16 年度東京都立大学傾斜配分研究費報告書『レンジャーと自然保護指導者の活動とその教育－レンジャー・サブレンジャー養成教育のための調査研究』（研究代表者：岩田修二），6-10.

菊地俊夫　2006．ニュージーランドにおけるレンジャー養成教育．平成 16 年度東京都立大学傾斜配分研究費報告書『レンジャーと自然保護指導者の活動とその教育－レンジャー・サブレンジャー養成教育のための調査研究』（研究代表者：岩田修二），46-48.

若林芳樹 2006.GISカリキュラムをめぐる最近の動向とGIS教育．平成17年度首都大学東京都市環境学部傾斜配分研究費報告書『地理情報システム（GIS)を中心とした問題発見・解決型デザイン教育のための研究』（研究代表者：福澤仁之），5-16.

若林芳樹・松山　洋・泉　岳樹・武田祐子・中山大地 2006．GIS Day in 東京 2005報告．平成17年度首都大学東京都市環境学部傾斜配分研究費報告書『地理情報システム（GIS）を中心とした問題発見・解決型デザイン教育のための研究）（研究代表者：福澤仁之），17-31.

その他の報文

杉浦芳夫　2005．「都市空間の人文地理」を振り返って．クロスロード＜TMU FD レポート　創刊号＞：47-48.

書評

菊地俊夫　2005．書評：高橋重雄・井上　孝・高橋朋一編『事例で学ぶ GIS と地域分析－ArcGIS を用いて』古今書院，2005，季刊地理学，57：156-157.

若林芳樹 2005．書評：寺本　潔・大西宏治・長谷川有機子『エコ地図をつくろう』黎明書房，2005 年 10 月，地図，43 巻 3 号，25-26.

その他の報文（技術レポート、商業誌、解説・雑録など）

若林芳樹 2005．地図でウソをつく方法．菊地俊夫・岩田修二編著『地図を学ぶ』39-48，二宮書店.

若林芳樹 2005．頭の中の地図－メンタルマップ－．菊地俊夫･岩田修二編著『地図を学ぶ』185-196，二宮書店.

武田祐子　2005．コンピュータが描く地図、菊池俊夫・岩田修二編　『地図を学ぶ－地図の読み方・作り方・考え方－』、175-184、二宮書店.

坪本裕之　2005．地図を使って都市再開発を考える．菊地俊夫・岩田修二編著『地図を学ぶ』67-77，二宮書店.

坪本裕之　2005．地形図から見る大都市東京の発達史．菊地俊夫･岩田修二編著『地図を学ぶ』143-151，二宮書店.

講演

杉浦芳夫　2005．明治 28 年の東京府におけるコレラの流行．2005 年度東北地理学会春季学術大会，仙台，2005 年 5 月 21 日.

杉浦芳夫　2005．アイセル湖干拓地における集落配置計画への中心地理論の応用をめぐって．グレコ

会，福岡，2005 年 11 月 11 日.
杉浦芳夫・矢部直人　2005. 空間的相互作用モデルによる東京大都市圏における 2000 年女性通勤流動の分析. 2005 年度人文地理学会大会，福岡，2005 年 11 月 13 日.
杉浦芳夫・中川　章・村山祐司　2006. 期待される地理学の人材教育. 2006 年度日本 地理学会春季学術大会，浦和，2006 年 3 月 28 日.
杉浦芳夫・村山祐司・中川　章　2006. 地理学教室の教育体制の現状. 2006 年度日本 地理学会春季学術大会，浦和，2006 年 3 月 28 日.
Kikuchi, T. 2005. Sustainability of rural space in the urban fringe of Tokyo metropolitan area; Spirituality and holiness of green space. International Geographical Union, Commission on Sustainability of Rural System, University of Roma Tre, Rome, Italy.
Kikuchi, T., Yamamoto, M. and Obara, N. 2005. Sustainable food system of Japanese organic vegetables from farmers to consumers. 15th IFOAM Organic World Congress, Adelaide, Australia.
若林芳樹 2005. 人間の空間認知と地図. 2005 年 5 月 28 日，東京学芸大学地理学会，東京学芸大学.
Wakabayasi, Y. 2005. Necessary conditions for cartographic communication and navigation with guide maps. 2005 年 7 月 15 日，ICC (International Cartographic Conference) 2005, A Coruna (Spain).
若林芳樹 2005. 女性と高齢者の空間的能力と地図利用. 2005 年 8 月 7 日，日本国際地図学会平成 17 年度定期大会，首都大学東京.
若林芳樹 2005. 大都市圏における働く女性の子育て支援をめぐる諸問題－保育サービスを中心として－. 2005 年 10 月 30 日，地理科学学会 2005 年度秋季学術大会，広島大学.
若林芳樹 2005. 犯罪の地理学－研究の視角と課題－. 2005 年 11 月 13 日，2005 年度人文地理学会大会，九州大学.
若林芳樹　2006. ICC（国際地図学会議）2005 報告. 2006 年 2 月 25 日，日本国際地図学会第 177 回例会，日本地図センター.
武田祐子 2005. GIS による時空間行動ハンドリングシステムの構築－地理情報標準に準拠したパーソントリップデータベースのＵＭＬモデル. 地理情報システム学会、大阪工業大学
Yuko Takeda 2005. An analysis of causal relationship between women ’ s life style and regional gender system in contemporary Japan. International Convention of Asia Scholars 4.,The Shanghai Exhibition Center. Shanghai.
武田祐子 2005. 女性のライフスタイルの地域差とジェンダー・システムの要因分析、地理科学会第 22 回シンポジウム「女性の就業と生活空間の多様性－地理学の視点」. 広島大学東千田キャンパス、2005 年 10 月 30 日
木下礼子・武田祐子 2006. プロジェクト XX「女達の地図帳日本版」――社会教育における地理教員の試み」日本地理学会春期学術大会、埼玉大学、2006 年 3 月 29 日
鈴木晃志郎 2005.「地図と道案内文を用いた経路探索の異文化比較.2005 年度人文地理学会，九州大学. 2005 年 11 月 13 日.
Arai, T. 2005. The culture and politics on the Yokota Air Force Base in Fussa City, Tokyo.

The 8th Asian Urbanization Conference, Kobe, Japan.

新井智一 2006. 東京都田無市・保谷市における女性による住民運動の発展と限界. 2006 年度日本地理学会春期学術大会, さいたま.

矢部直人　2005. 東京都心部における地価上昇と不動産ファンド―GWR による分析―. 2005 年グレコ会, 福岡.

杉浦芳夫・矢部直人　2005. 空間的相互作用モデルによる東京大都市圏における 2000 年女性通勤流動の分析. 2005 年人文地理学会大会, 福岡.

【研究補助金の取得】（代表者のみ）

杉浦芳夫：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）（２）「ナチ・ドイツによる中心地理論の東方占領地への応用に関する研究」

菊地俊夫：文部省科学研究費補助金　基盤研究（C）「農山村におけるプロダクティブエイジング創生とその社会的持続性に関する地理学的研究」

若林芳樹：科学研究費補助金基盤研究(Ｂ)(１)「ユビキタスネットワーク社会における地理情報の新しい表現と利用に関する研究」

若林芳樹：科学研究費補助金萌芽研究「メディア報道と地域イメージからみた犯罪多発地区の空間分析」

若林芳樹：日産自動車㈱共同研究「カーナビゲーションシステムにおける地理情報の新しい空間表現とその効果に関する研究」

2005 年度の教員の学外活動

岩田修二

国立極地研究所運営協議員

国立極地研究所南極観測審議会委員

広島大学総合地誌研究資料センター客員研究員

中国蘭州大学中国第四紀氷河環境研究センター客員教授

日本学術会議地質科学総合研究連絡委員会第四紀学専門委員会委員長

日本地形学連合委員

日本第四紀学会評議員

（社）東京地学協会評議員

（社）日本地理学会理事長

（財）日本地図センター評議員

［非常勤講師］

一橋大学・社会学部「地球環境論」講師

山口大学・共通教育「山と谷」講師

東北大学大学院理学研究科「自然地理学」講師

立正大学地球環境科学部「雪氷圏の環境」講師

杉浦芳夫

日本地理学会常任理事（企画専門委員会委員長）

人文地理学会協議員

東京地学協会評議員

放送大学学園客員教授

［非常勤講師］

東京外国語大学大学院非常勤講師「人文地理学研究」

福澤仁之

日本学術会議地質学総合研究連絡委員会委員（環境地質学専門委員会幹事）

日本学術会議地球環境研究連絡委員会 IGBP 専門委員会委員（PAGES 委員会副委員長）

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

日本技術者教育認定機構（JABEE）「地球・資源」分野運営委員会委員

日本技術者教育認定機構（JABEE）「地球・資源」分野審査委員会委員

日本地質学会地質工学分野技術者教育（JABEE）委員会委員長

日本地質学会科学研究費委員会委員

東京地学協会行事委員会委員

日本第四紀学会評議員

国際陸上科学掘削計画（ICDP）科学諮問委員会湖沼掘削委員会委員
国際陸上科学掘削計画（ICDP）国内実施委員会委員
アジア湖沼掘削計画（ALDP）指導委員会委員
国際地質対比計画（IGCP）No.476「新生代後期のモンスーン活動と気候-テクトニクスリンケージ」組織委員会コアメンバー
国際地質対比計画（IGCP）No.476　国内実施委員会委員
国際堆積学会議（ISC2006）組織委員会セッションコーディネーター・コンビーナ・査読委員
経済産業省「環境・経済・文明」プロジェクト研究班員
国際日本文化研究センター共同研究員
国立歴史民俗博物館共同研究員
統合地球環境研究所 FS 研究コアメンバー
核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター客員研究員
滋賀県立琵琶湖博物館共同研究員
滋賀県立琵琶湖博物館企画展示委員

［非常勤講師］
日本大学文理学部講師「気候変動論（学部））」
東京農工大学工学部講師「地学（学部）」

堀　信行
日本地理学会代議員
日本地理学会名誉会員推薦委員会
日本ナイル・エチオピア学会評議員
地理科学学会評議員
広島史学研究会評議員
東京地学協会行事委員会委員
沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員
広島大学総合地誌研究資料センター客員研究員
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員
東京都水産海洋研究推進プロジェクトチーム総括委員および小笠原海域ワーキンググループ委員長
文化庁文化審議会専門委員（文化財分科会）
季刊誌「エコソフィア：人間と自然をつなぐもの」編集委員会委員
生涯学習機構／めぐろシティカレッジ振興会会長および学長
NPO 法人「杜の会」理事

三上岳彦

国際地理学連合(IGU)気候学専門委員会(Commission on Climatology)専門委員

International Journal of Climatology 編集委員(Editorial Board)

中国気象局北京都市気象研究所顧問

日本学術会議：ヒートアイランド現象研究連絡委員会幹事

日本学術会議：環境理学研究連絡委員会幹事

環境省「地球温暖化対策とまちづくりに関する検討会」座長

環境省ヒートアイランド対策手法調査検討委員会委員

環境省「都市緑地を活用した地域の熱環境改善構想検討会」委員

国土交通省ヒートアイランド緩和対策検討委員会委員

台東区地球温暖化対策地域水深計画策定懇談会委員

杉並区都市型水害対策検討専門家委員会委員

東京地学協会理事

東京地学協会行事委員会委員長

日本地理学会賞受賞候補者選考委員会委員長

日本地理学会代議員

IPCC Working Group I Fourth Assessment Report: Expert Reviewer

山崎晴雄

経済産業省　独立行政法人評価委員会　産業技術分科会　臨時委員

文部科学省　地震調査研究推進本部　地震調査委員会　委員

文部科学省　地震調査研究推進本部　長期評価部会　委員

文部科学省　地震調査研究推進本部　政策委員会予算小委員会　委員

内閣府　原子力安全委員会　原子炉安全専門審査会　委員

内閣府　原子力安全委員会　特定放射性廃棄物処分安全調査会　委員

内閣府　原子力安全委員会　放射性廃棄物廃止・措置専門部会　委員

内閣府　原子力委員会　原子力試験研究検討会　防災・安全基盤技術 WG　委員

内閣府　原子力委員会　超半減期低発熱放射性廃棄物処分技術検討会　委員

独立行政法人産業技術総合研究所　活断層研究センター　客員研究員

独立行政法人原子力安全基盤機構　自然科学基盤調査研究検討会　委員

独立行政法人原子力安全基盤機構　放射性廃棄物処分技術基準調査検討会　委員

独立行政法人日本原子力研究開発機構　核燃サイクル安全研究委員会　専門委員

電力中央研究所　放射性廃棄物処分におけるセーフティーケースに関する社会的受容性調査検討委員会委員

（財）原子力安全研究協会　地層処分の安全性に関する調査検討専門委員会　委員

（財）原子力環境整備促進・資金管理センター　高レベル放射性廃棄物処分技術開発委員会委員

（財）原子力環境整備促進・資金管理センター　地層処分重要基礎技術研究委員会　委員

（財）地震予知総合研究振興会　地震防災評価機構　「地震ハザード解析におけるロジックツリ

ーの評価」評価委員会　委員
（社）東京都地質調査業協会　理事
日本第四紀学会　評議員
日本第四紀学会　幹事長
日本第四紀学会 50 周年記念事業実行委員会　事務局長
土木学会　原子力土木委員　会委員
日本地震工学会　学術・調査委員会　委員
日本地震学会　学会賞若手学術奨励賞選考委員会　委員

岡　秀一
日本地理学会代議員
八王子市斜面緑地保全委員会委員
教育課程実施状況調査問題審査委員会委員（国立教育政策研究所）
平成 17 年度小笠原南島モニタリング調査検討委員会委員（日本自然保護協会）
日本オーガニック＆ナチュラルフーズ協会有機認証判定委員
唐臼山の老木保存会（上田市）顧問
「首都大学東京同窓会」評議員
[非常勤講師]
東京大学教養学部「世界地誌Ⅳ・ラテンアメリカ地理」
都留文科大学「地球環境科学」
首都大学東京オープンユニバーシティ「自然の読み方②」「山を歩く（野外実習）」

菊地俊夫
日本地理学会代議員
群馬地理学会理事
めぐろシティカレッジ・カリキュラム委員
日本オーガニック＆ナチュラルフーズ協会（JONA）認証判定委員・委員長
農林水産省畜産生産情報規格判定委員
東京都自然公園等の適正利用・管理検討会委員
東京都立大島南高等学校再編検討委員
［非常勤講師］
日本大学文理学部非常勤講師「地理学」
埼玉大学教養学部非常勤講師「地誌学概論」

篠田雅人
日本地理学会編集専門委員会（英文）委員
日本気象学会「気象研究ノート」編集委員会委員
（財）地球・人間環境フォーラム 北東アジアにおける砂漠化・干ばつ対策検討委員会委員

独立行政法人国際協力機構「モンゴル国気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト」専門家

「IPCC WGI/II 2007」日本政府推薦 Expert Reviewer

鈴木毅彦

日本第四紀学会　評議員

日本第四紀学会　50 周年記念事業実行委員会委員

日本第四紀学会　50 周年電子出版編集委員会委員

日本第四紀学会　テフラ・火山研究委員会代表

日本地理学会　災害対応委員会委員

東京地学協会　編集委員会副委員長

東京地学協会　行事委員会委員

［非常勤講師］

駒澤大学文学部「第四紀学」

文部科学省平成 17 年度サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招へい講座講師（東京都立成瀬高校）

松山　洋

日本地理学会「海外地域研究叢書」出版企画委員会委員

日本地理学会編集専門委員会委員

日本地理学会地理情報システム技術資格推進委員会委員

日本気象学会講演企画委員

水文・水資源学会編集出版委員(東京グループ代表)

地理情報システム学会理事

地理情報システム学会企画委員会委員

東京地学協会行事委員会委員

東京地学協会ジオエキスパート委員会委員

総合地球環境学研究所共同研究員

古今書院「月刊地理」書架委員

［非常勤講師］

日本大学大学院理工学研究科「地球科学特別講義 I」

日本大学文理学部「地球環境論」

若林芳樹

東京地学協会編集委員会委員

地理情報システム学会理事・編集委員

地理科学学会評議員

日本地理学会代議員

日本国際地図学会評議員・常任委員
日本国際地図学会集会委員長
日本国際地図学会編集委員
日本学術会議地理学研究連絡委員会委員
[非常勤講師]
法政大学経済学部「地理学」
早稲田大学人間科学部「人文地理学Ⅰ」
国土交通大学校「人間の空間認知と地図」

泉　岳樹
(杉並区) 成田地域まちづくり協議会事務局長

大山　修一
日本アフリカ学会 編集委員会 委員
国立民族学博物館　共同研究員「ドメスティケーションの民族生物学的研究」
[非常勤講師]
専修大学文学部「地域研究Ⅳ（アフリカ)」
富山大学人文学部「情報文化論Ⅰ」「文化人類学特殊講義Ⅰ」

武田祐子
日本地理学会庶務専門委員会委員
［非常勤講師］
お茶の水女子大学文教育学部「社会情報処理Ⅱ」
法政大学文学部「数理地理学」

塚本すみ子
IGCP PAGES 小委員会委員

坪本裕之
経済地理学会編集委員会委員
［非常勤講師］
大妻女子大学「地理的空間と社会生活」
法政大学経済学部「地理学」

中野智子
日本雪氷学会総務委員会委員
［非常勤講師］
中央大学経済学部非常勤講師「地球科学」

中山大地:

日本地形学連合企画幹事

［非常勤講師］

お茶の水女子大学文教育学部「情報基礎 E」「測量学」

法政大学文学部「応用地理学」「日本地誌 2」

法政大学通信教育部「地理学特講」

専修大学文学部「リモートセンシング基礎および実習」

原山道子

日本地理学会財務専門委員会委員

2005年度海外研究

岩田修二：パキスタン，2005年10月22日～11月4日

「南・中央アジアの山岳資源管理への地生態学的研究フレームワークの構築に関する調査」科学研究費補助金（代表者：渡辺悌二）

福澤仁之：韓国（済州島），2005年11月24日～26日

「The International Symposium for Conservation and Restoration of Hanon Crater Wetland」への参加と招待講演．韓国緑地環境学会助成金.

福澤仁之：韓国（済州島），2006年1月19日～21日

「Symposium of Korean Society of Greenland and Environment at the International Conference Center of the Cheju」への参加と招待講演．韓国緑地環境学会助成金.

福澤仁之：グアテマラ（グアテマラシティ、ティカル），2006年３月31日～４月８日

「マヤ文明ティカル遺跡における環境考古学調査およびラシャ湖コアリング調査」日本放送協会「NHKスペシャル新大陸文明プロジェクト」経費.

堀　信行：イギリス・ケニア・カメルーン・ニジェール・セネガル・フランス，2005年7月29日―9月7日

「アフリカ･サバンナ帯の民族知と変化する環境との相克」（科学研究費補助金　基盤研究（A）海外学術　代表者：堀　信行）

三上岳彦：中国，2005年5月28日～5月30日

「中国･上海における都市ヒートアイランド現象の実態解明に関する研究調査」科学研究費基　盤研究（C）（代表者：白　迎玖）

三上岳彦：韓国，2005年8月4日～8月7日

「The Korea-Japan Joint Workshop on the Cheong-Gye Stream Restoration」参加・招待講演

山崎晴雄：モンゴル，2005年7月20日～８月１日

「Bulnay2005」（1905年モンゴル・ブルナイ地震100周年記念国際研究集会）参加・発表

岡　秀一：ペルー，2005年9月19日～9月29日

「レンジャー養成のためのカリキュラム検討・開発」事業における人材養成組織とそのプログラムに関する調査（東京都環境局委託）

菊地俊夫：イタリア（ローマ），2005年7月3日～7月11日

「農山村におけるプロダクティブエイジング創生とその社会的持続性に関する地理学的研究」科学研究費補助金　基盤研究（Ｃ）（代表者：菊地俊夫）

菊地俊夫：カナダ，2005年8月22日～9月1日

「自然環境の保全と適正利用・管理を担う人材養成のための調査」東京都環境局委託調査（代表者：岩田修二）

菊地俊夫：オーストラリア（アデレード），2005年9月17日～9月29日

「日本農業の担い手からみた農業維持システムの地域動態的研究」　科学研究費補助金　基盤研究（Ｂ）（代表者：田林　明）

篠田雅人：モンゴル，2005 年 5 月 2 日～5 月 8 日

「モンゴル国気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト」独立行政法人国際協力機構

篠田雅人：モンゴル，2005 月 5 月 19 日～5 月 27 日

「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」文部科学省科学研究費補助金

篠田雅人：モンゴル，2005 年 8 月 1 日～8 月 22 日

「衛星画像による氷河・氷河湖の変動解明：モンスーンアジアと乾燥アジアでの比較」文部科学省科学研究費補助金

篠田雅人：モンゴル，2006 年 2 月 23 日－2006 年 2 月 28 日

「モンゴル国気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト」独立行政法人国際協力機構

鈴木毅彦：カナダ，2005 年７月 31 日～８月８日

テフロクロノロジーと火山活動に関する国際野外集会(INQUA Sub-Commision for Tephrochronology and volcanism) 出席と研究発表.

松山　洋: 中国・カザフスタン，2005 年 8 月 27 日～9 月 4 日

「衛星画像による氷河・氷河湖の変動解明: モンスーンアジアと乾燥アジアでの比較」(科学研究費補助金基盤研究(B) 代表者：岩田修二)

若林芳樹：スペイン，2005 年 7 月 9 日～18 日

「ICC2005（2005 年国際地図学会議）に出席・研究発表」科学研究費基盤研究(B)(1)（代表者：若林芳樹）

泉　岳樹: 中国，2005年8月26日～31日

「建築・街区・都市・地域の各規模にまたがる熱環境解析とアジアの巨大都市への適用」の研究遂行のための現地調査　科学研究費補助金 基盤研究 (A)　（代表者：東京大学工学部教授 花木啓祐)

大山修一：ニジェール，2005 年 6 月 16 日～7 月 10 日

「西アフリカ・サヘル地域における都市ゴミを利用した砂漠緑化技術の開発・研究」科学研究費補助金 若手研究(B)(代表者：大山修一)

大山修一：ペルー，2005 年 8 月 12 日～9 月 4 日

ペルー・アンデスにおけるラクダ化野生動物ビクーニャと野生型ジャガイモの生態（科学研究費補助金　基盤研究(B) 「高地環境における家畜と近縁野生種の生態と遺伝学的関係に関する学際的研究―中央アンデスを中心に―」（代表者：愛知県立大学　稲村哲也）

大山修一：ザンビア，2006 年 2 月 27 日～3 月 20 日

「地域研究を基盤としたアフリカ型農村開発に関する総合的研究」科学研究費補助金　基盤研究(S)(2) (代表者：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科　掛谷　誠)

武田祐子：シャンハイ，2005 年 8 月 20 日～8 月 24 日

International Congress of Asian Scholars，出席、研究発表、科学研究費基盤研究(B)(2)（代表者：広島大学　由井義通)「女性就業の多様化からみた都市空間のジェンダー化の地域的差異に

関する研究」

塚本すみ子：デンマーク，2005 年 2 月 8 日～4 月 18 日，4 月 25 日～7 月 1 日

「長石の長寿命成分をもちいたＯＳＬ年代測定の研究」

塚本すみ子：イタリア，2005 年 9 月 9 日～9 月 20 日

「ソンマ・ヴェスビアーナ遺跡およびその周辺の堆積物調査」科学研究費特定領域研究「火山罹災地の文化・自然環境復元」（代表者：青柳正規）

中野智子：モンゴル，2005 年 4 月 28 日～5 月 15 日

「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」に関する現地調査

中野智子：モンゴル，2005 年 6 月 18 日～6 月 22 日

「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」に関する現地調査

中野智子：モンゴル，2005 年 7 月 23 日～8 月 8 日

「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」に関する現地調査

中野智子：モンゴル，2005 年 9 月 17 日～9 月 24 日

「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」に関する現地調査

青山雅史：アルゼンチン，2005 年 7 月 20 日～8 月 27 日

「南米パタゴニア氷原における完新世の環境変動の解明」（代表者　安仁屋政武）

黒田真二郎：中国，2005 年 8 月 2 日～8 月 29 日

「粗大礫により構成される周氷河岩屑斜面の形成環境」東京地学協会研究調査助成金（研究代表者：松山　洋）・国土地理協会平成 16 年度学術研究助成（代表者：岩田修二）

鈴木晃志郎：カリフォルニア大学サンタバーバラ校 客員研究員（Research Scholar）

田村糸子：カナダ，2005 年７月 31 日～８月８日

テフロクロノロジーと火山活動に関する国際野外集会(INQUA Sub-Commision for Tephrochronology and volcanism)　出席と研究発表.

2005 年度に教室を訪問した外国人研究者

Dr. Dirk Schefer　　マインツ大学（ドイツ）　　2005 年９月 17 日～10 月 15 日

IV. 教室行事・出版物

2005 年度の主な教室行事

4 月 5 日	入学式
4 月 6 日	履修ガイダンス(修士・博士 1 年生)
4 月 7 日	履修ガイダンス(学部 2 年生以上)
	履修ガイダンス(修士・博士 2 年生以上)
4 月 8 日	履修ガイダンス(学部 1 年生)、対面式
7 月 9 日	大学院説明会
7 月 22 日	博士論文中間発表会
7 月 18 日	大学説明会
8 月 8 日・9 日	GIS Day in Tokyo
8 月 25 日	大学説明会
10 月 4 日・5 日	修士論文中間発表会
10 月 6 日	卒業論文中間発表会
11 月 3 日	大学祭・理学部オープンラボ
11 月 25 日	修士論文構想発表会
11 月 26 日	就職懇談会
12 月 3 日	卒業論文・修士論文テーマ公募集会　（於　有楽町・東京国際フォーラム）
1 月 26 日	修士論文発表会
2 月 10 日	卒業論文発表会
2 月 3 日・28 日	博士論文公聴会
3 月 24 日	卒業式・JABEE 修了証授与式

2005 年度の教室出版物

「平成 18 年度（2006 年度）学部学生・大学院生のための手引」 68p.

「首都大学東京都市環境学部・大学院理学研究科地理学教室・

東京都立大学理学部・大学院理学研究科地理学教室年報 2005 年度」 72p.

「Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University」 vol.40, 1-65pp.